

参考資料

< 目 次 >

1. 島民アンケート調査における現状把握（H30 調査より）	1
2. 観光客アンケート調査における現状把握（H30 調査より）	14
3. 高校生アンケート調査における現状把握（R03 調査より）	19
4. ビッグデータによる人流把握	24

1. 島民アンケート調査における現状把握（H30 調査より）

(1) 島民アンケート調査について

- ・本調査は、路線バス再編後の島民ニーズを把握するため、平成 30 年度に実施したアンケート調査である。
- ・紙媒体によるアンケート配布・回収を実施し、361 人からの回答を得ている。回答者属性を以下に示す。

1) 居住地

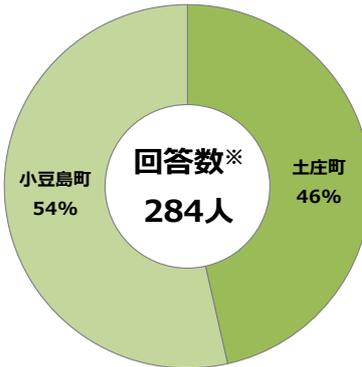
- ・回答者の居住地内訳は以下のとおり。全回答者 361 人のうち、回答があった 284 人についてみると、小豆島町の回答がやや多いが、これは H27 国勢調査の人口構成比とほぼ同様な傾向である。

▼回答者の居住地内訳

区分	件数	割合※
1 土庄町	132	46%
2 小豆島町	152	54%
3 無回答	77	
合計（無回答を除く）	284	100%
合計	361	

※無回答を除く

▼回答者の居住地内訳



《参考：H27 国勢調査人口》



2) 性別

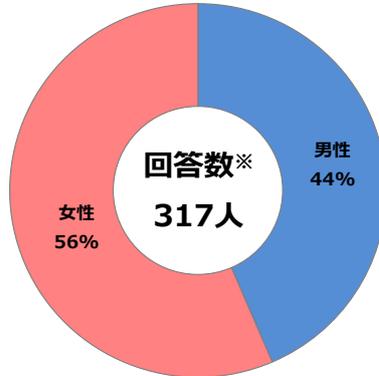
- ・回答者の性別内訳は以下のとおり。同様に、回答があった 317 人についてみると、女性の回答がやや多く、H27 国勢調査の人口構成比からみても若干ではあるが多めの傾向である。

▼回答者の性別内訳

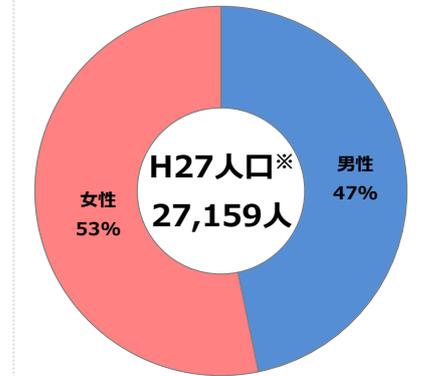
区分	件数	割合※
1 男性	138	44%
2 女性	179	56%
99 無回答	44	
合計（無回答を除く）	317	100%
合計	361	

※無回答を除く

▼回答者の性別内訳



《参考：H27 国勢調査人口》



3) 年齢階層

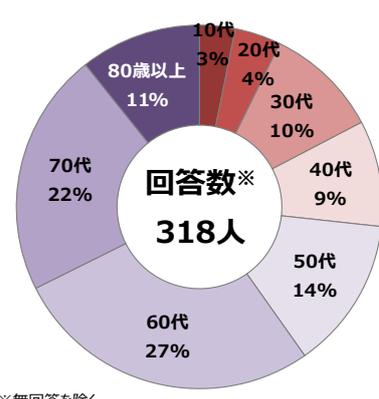
- ・回答者の年齢階層別内訳は以下のとおり。同様に、回答があった 318 人についてみると、60～70 代の回答が多くほぼ半数を占める、これは、H27 国勢調査の人口構成比からみても多めの傾向である。

▼回答者の年齢階層別内訳

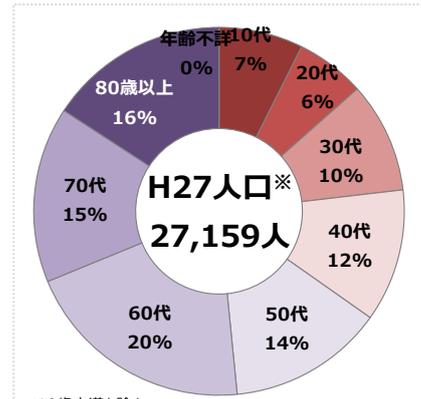
区分	件数	割合※
1 10代	10	3%
2 20代	13	4%
3 30代	32	10%
4 40代	30	9%
5 50代	43	14%
6 60代	87	27%
7 70代	69	22%
8 80歳以上	34	11%
99 無回答	43	
合計（無回答を除く）	318	100%
合計	361	

※無回答を除く

▼回答者の年齢階層別内訳



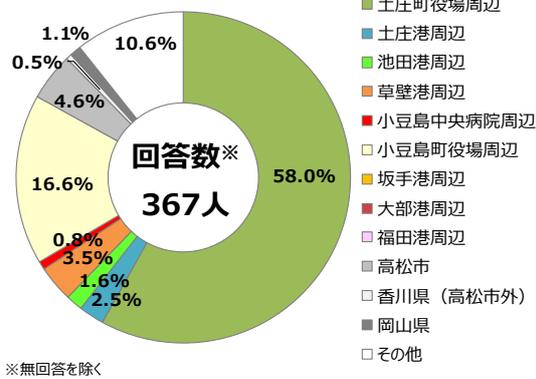
《参考：H27 国勢調査人口》



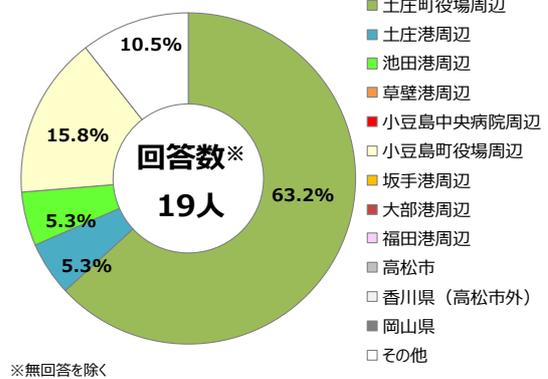
(2) 現状における移動実態 (買物目的)

1) 主な目的地

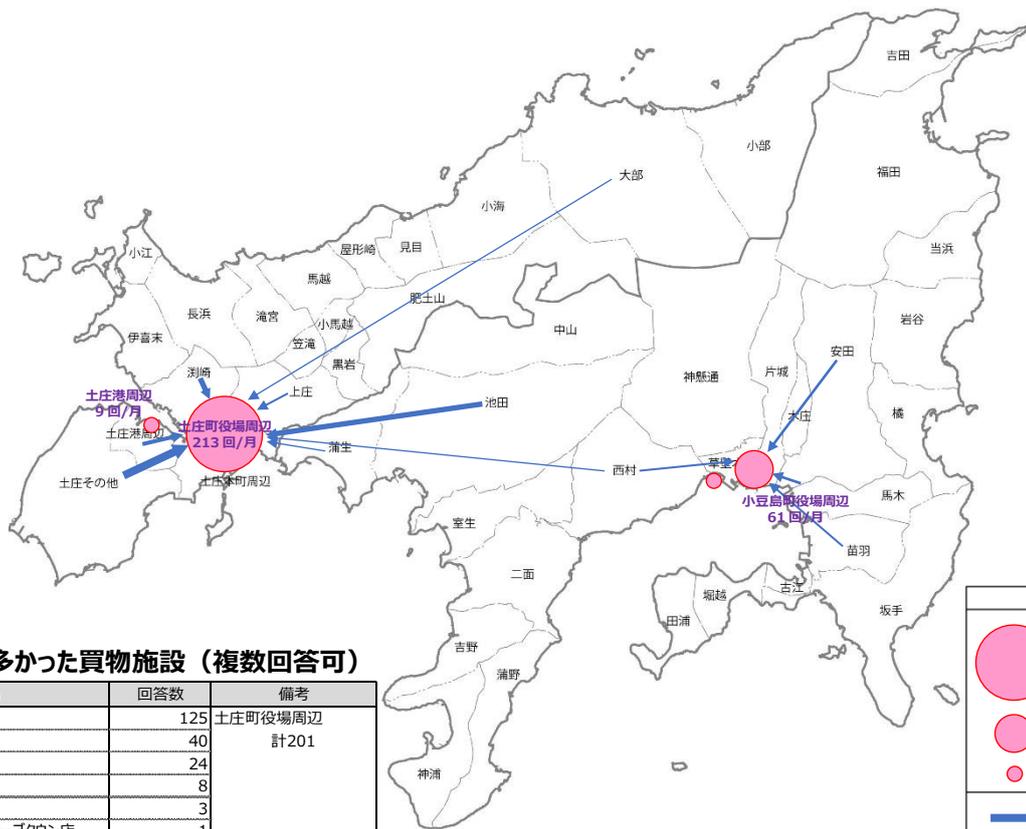
- ・回答者の「買物」行動の主な目的地は、「土庄町役場周辺」が 58%、「小豆島町役場周辺」が 16.6%となっており、オーリーブタウンの利用者が多い。
- ・現在のバス利用者の回答は、全手段の約 5%程度であるが、買物先の傾向は全手段と同様である。



▲「買物」の目的地 (全手段)



▲「買物」の目的地 (路線バス利用のみ)



▼回答数の多かった買物施設 (複数回答可)

店舗名	回答数	備考
マルヨシセンター土庄店	125	土庄町役場周辺
DCMダイキ小豆島店	40	計201
レディ薬局小豆島店	24	
オーリーブタウン	8	
マツヤデンキ小豆島店	3	
セブンイレブン小豆島オーリーブタウン店	1	
マルナカ新土庄店	79	土庄町役場周辺
マルナカ内海店	39	小豆島町役場周辺
マルヨシセンター内海店	25	小豆島町役場周辺
コスモス土庄店	16	土庄町役場周辺
ダイレックス土庄店	15	土庄町役場周辺
ザグザグ土庄店	14	土庄町役場周辺
ザグザグ内海店	10	草壁港周辺
しまむら土庄店	6	土庄町役場周辺

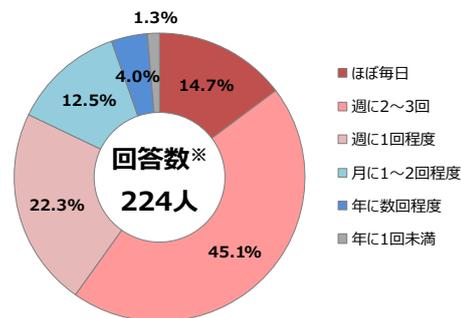
高松市
17回/月

▲「買物」の目的地と主な流動 (全手段)

出典) H30 島民アンケート調査 (小豆島地域公共交通協議会調べ)

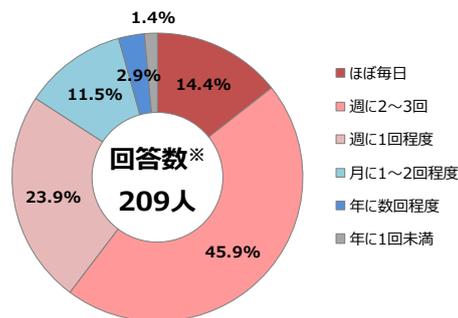
2) 買物頻度

・「週に1回以上」の頻度が、再編前後ともに8割以上であり、再編前後における「買物頻度」の変化は約9割が「変わらない」と回答。



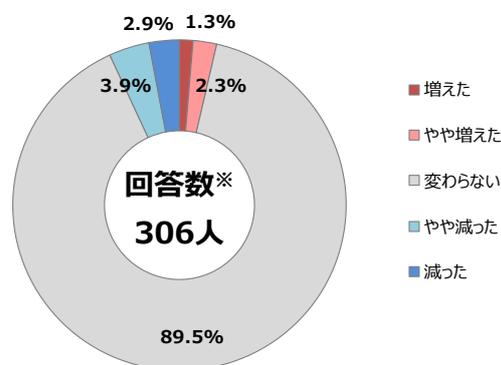
※無回答を除く

▲「買物頻度」(再編前)



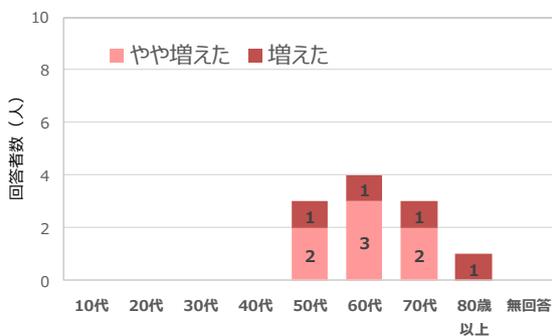
※無回答を除く

▲「買物頻度」(再編後)

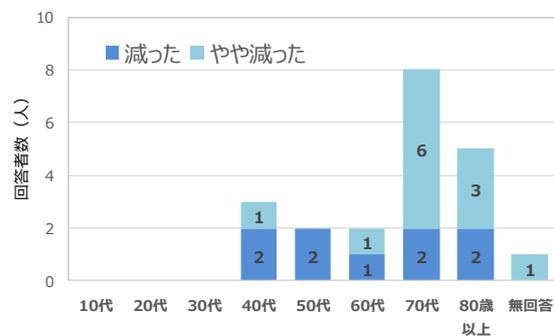


※無回答を除く

▲「買物頻度」の変化



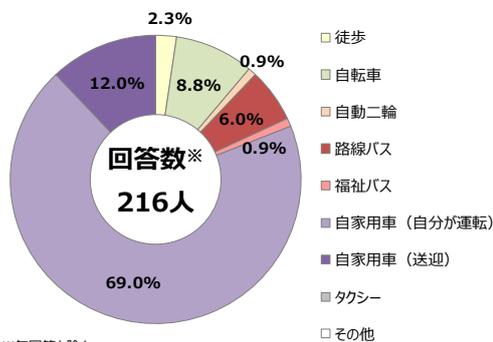
▲「買物頻度」が増えたと回答した年代



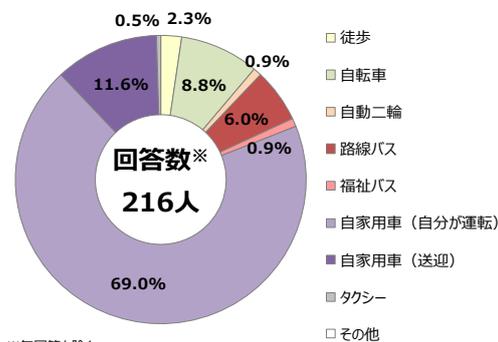
▲「買物頻度」が減ったと回答した年代

3) 買物目的における交通手段

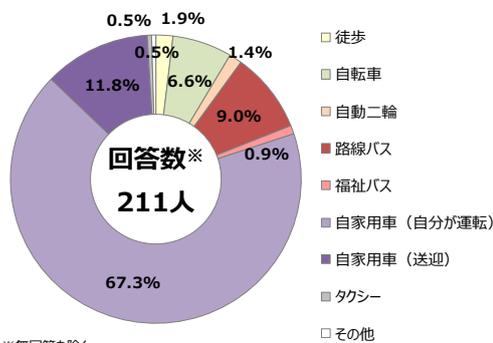
- ・「買物目的」の路線バスの利用割合を見ると、再編前が6%に対し、再編後は9%と3ポイント上昇。
- ・「買物手段」の変化があった4.7%（17人）のうち、「路線バス」への転換は7人であった。



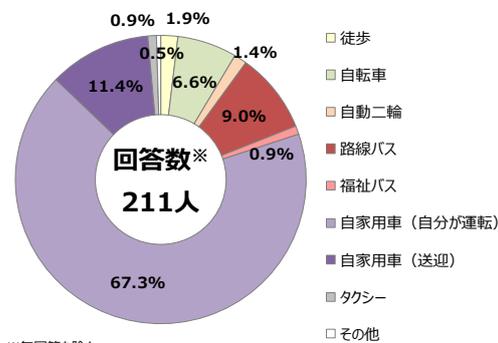
▲「買物手段」（再編前・行き）



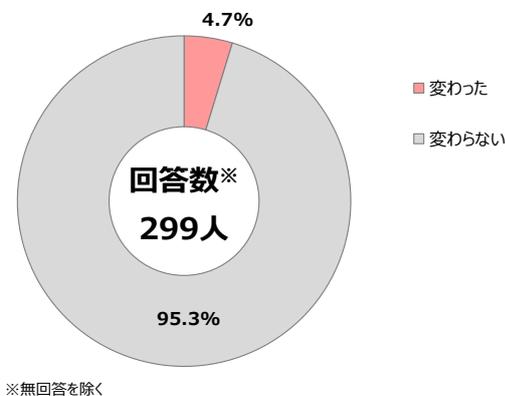
▲「買物手段」（再編前・帰り）



▲「買物手段」（再編後・行き）



▲「買物手段」（再編後・帰り）



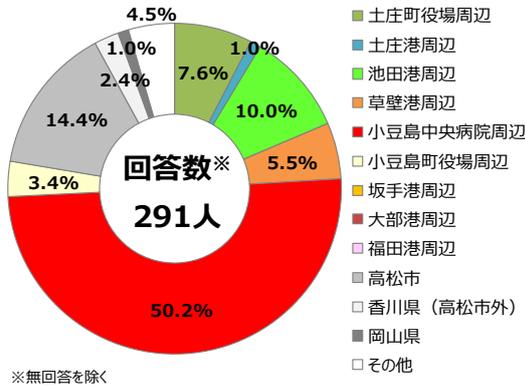
▲「買物手段」の変化

出典) H30 島民アンケート調査（小豆島地域公共交通協議会調べ）

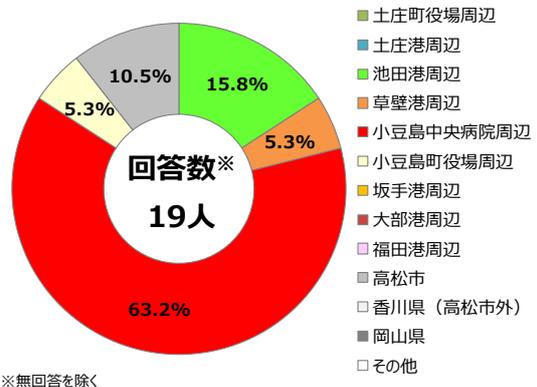
(3) 現状における移動実態 (通院目的)

1) 主な目的地

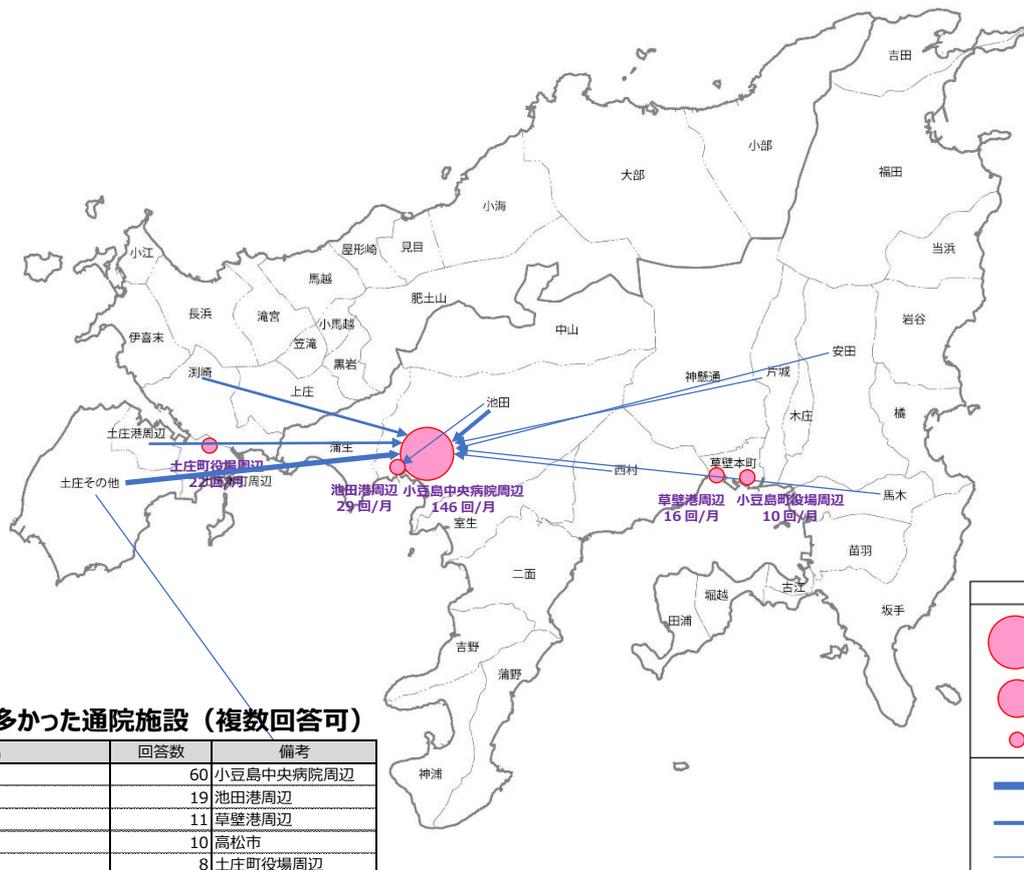
- ・回答者の「通院」行動の主な目的地は、「小豆島中央病院周辺」+「池田港周辺」が 60.2%、「高松市」が 14.4%となっており、小豆島中央病院の利用者が多い。
- ・現在のバス利用者の回答は、全手段の約 6%程度であるが、通院先の傾向は島内がやや多い。



▲「通院」の目的地 (全手段)



▲「通院」の目的地 (路線バス利用のみ)

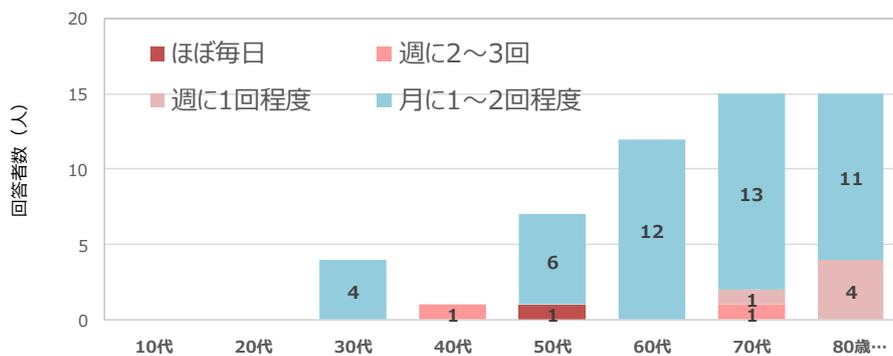
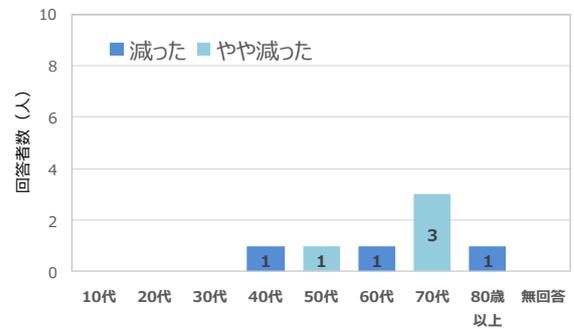
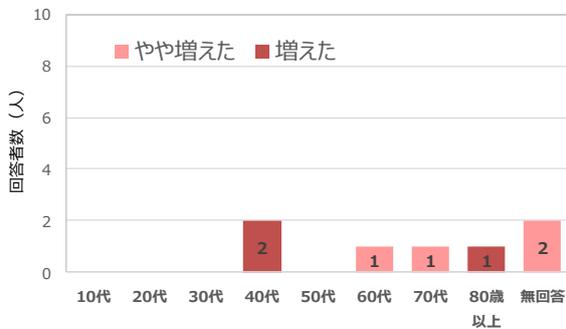
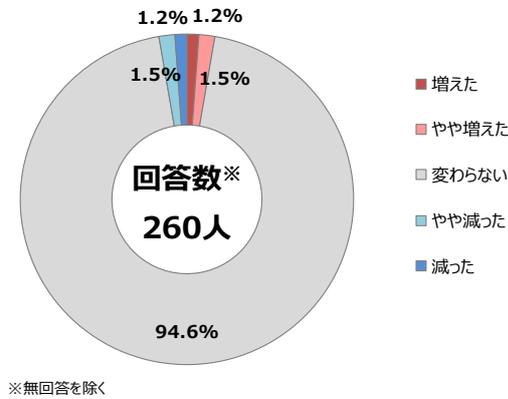
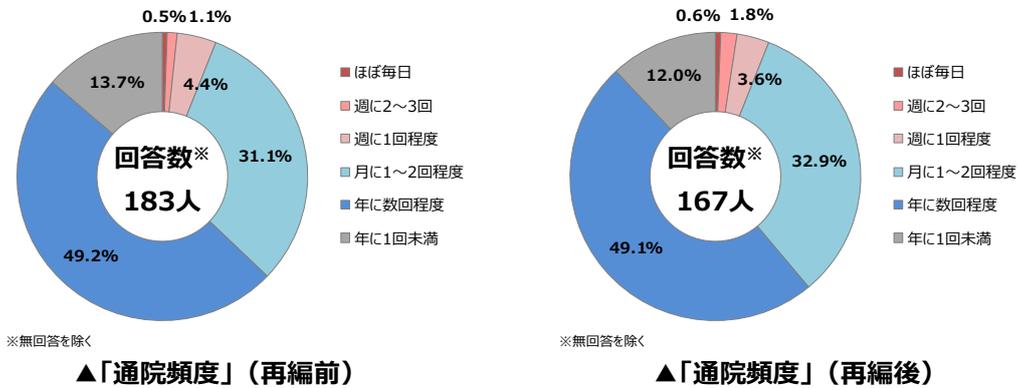


▲「通院」の目的地と主な流動 (全手段)

出典) H30 島民アンケート調査 (小豆島地域公共交通協議会調べ)

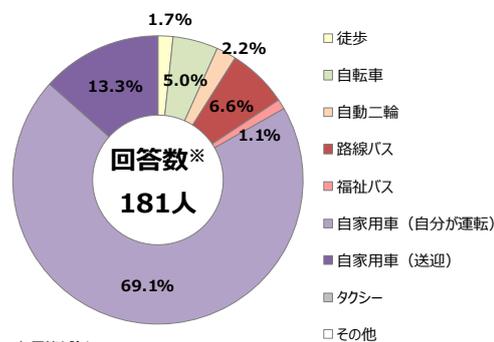
2) 通院頻度

- ・「月に1～2回程度」の頻度が、再編前後ともに3割程度であり、再編前後における「通院頻度」の変化は9割以上が「変わらない」と回答。
- ・「通院頻度」を年代別にみると、60代以上から「月に1～2回程度」の通院が多くなっている。



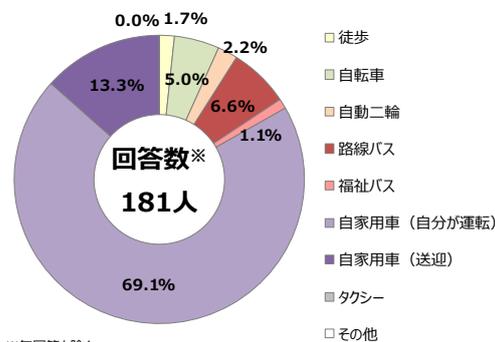
3) 通院目的における交通手段

・「通院目的」の路線バスの利用割合を見ると、再編前 6.6%に対し、再編後は 9.8%と 3.2 ポイント上昇。
 ・「通院手段」の変化があった 6.3%（16 人）のうち、「路線バス」への転換は 7 人であった。



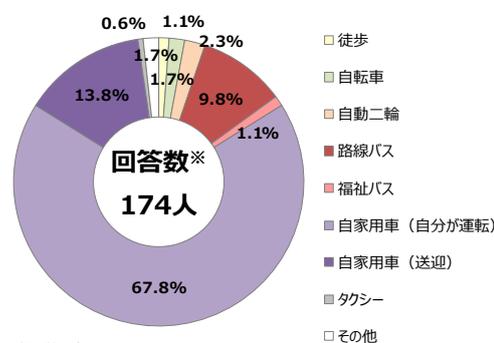
※無回答を除く

▲「通院手段」(再編前・行き)



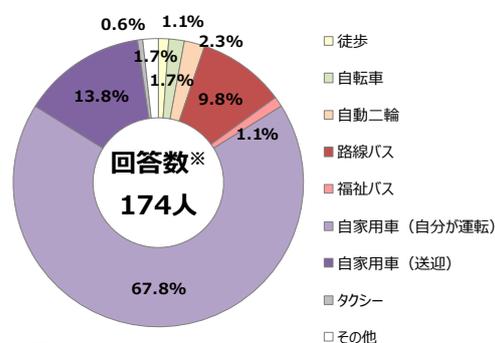
※無回答を除く

▲「通院手段」(再編前・帰り)



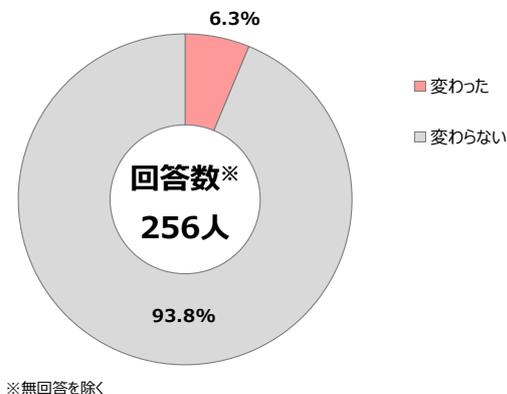
※無回答を除く

▲「通院手段」(再編後・行き)



※無回答を除く

▲「通院手段」(再編後・帰り)



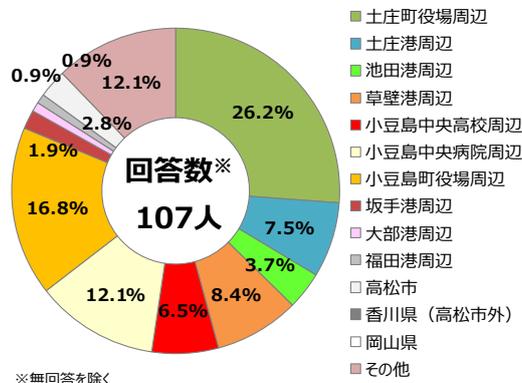
※無回答を除く

▲「通院手段」の変化

(4) 現状における移動実態（通勤目的）

1) 主な目的地

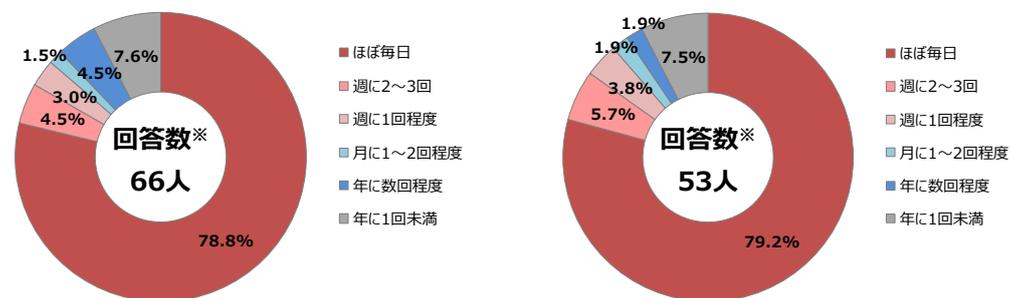
・回答者の「通勤」行動の主な目的地は、「土庄町役場周辺」が 26.2%、「小豆島町役場周辺」が 16.8%、「小豆島中央病院周辺」が 12.1%と多い。



▲「通勤」の目的地（全手段）

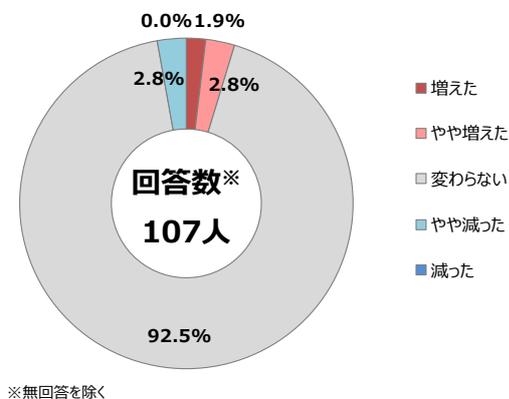
2) 通勤頻度

・「ほぼ毎日」の頻度が、再編前後ともに 8 割弱であり、再編前後における「通勤頻度」の変化は 9 割以上が「変わらない」と回答。



▲「通勤頻度」(再編前)

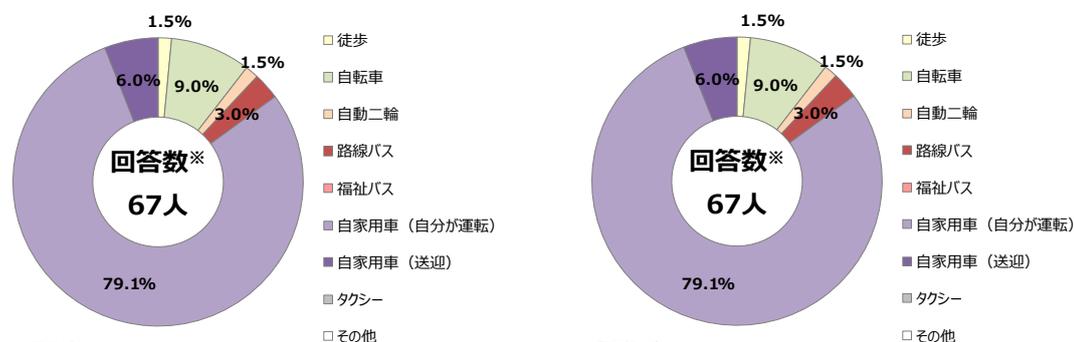
▲「通勤頻度」(再編後)



▲「通勤頻度」の変化

3) 通勤目的における交通手段

・「通勤目的」の路線バスの利用割合を見ると、再編前が3%に対し、再編後は9.4%と6.4ポイント上昇。
 ・「通勤手段」の変化があった6.1%（6人）のうち、無回答の2名を除き、全ての方が「路線バス」への転換であった。

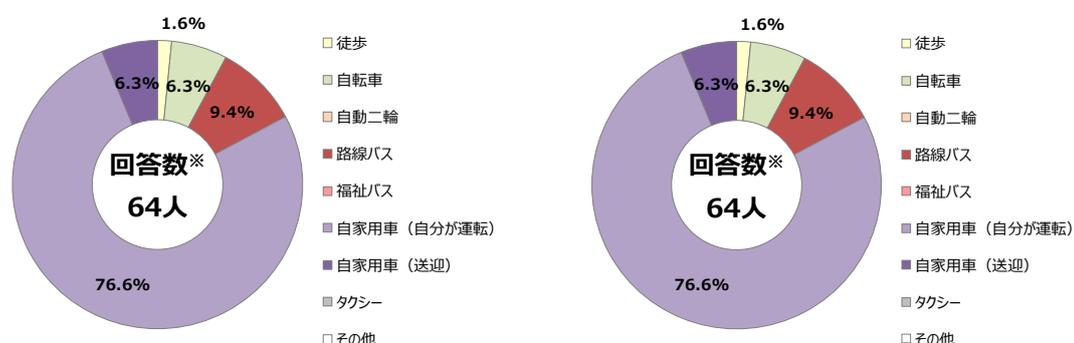


※無回答を除く

▲「通勤手段」(再編前・行き)

※無回答を除く

▲「通勤手段」(再編前・帰り)

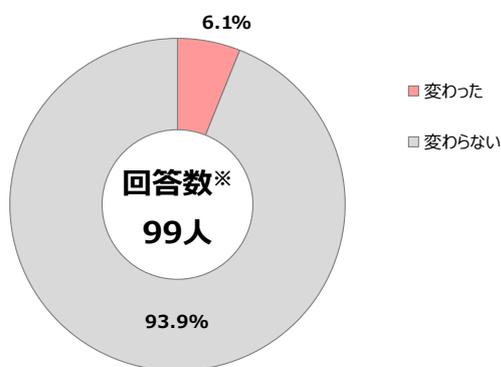


※無回答を除く

▲「通勤手段」(再編後・行き)

※無回答を除く

▲「通勤手段」(再編後・帰り)



※無回答を除く

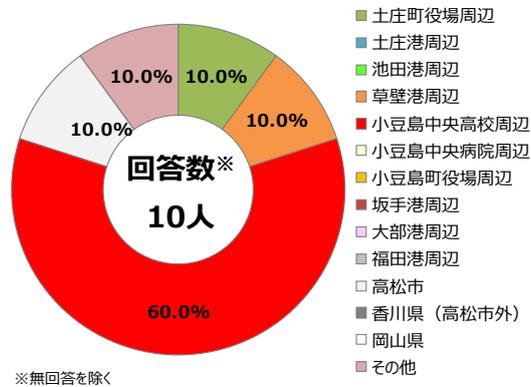
▲「通勤手段」の変化

(5) 現状における移動実態（通学目的）

1) 主な目的地

※通学目的の回答者は 10 人である。以下参考。

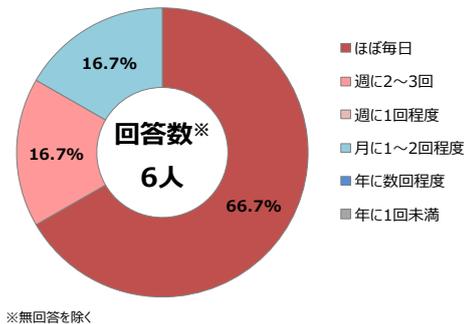
・回答者の「通学」行動の主な目的地は、「小豆島中央高校周辺」が 6 割となっている。



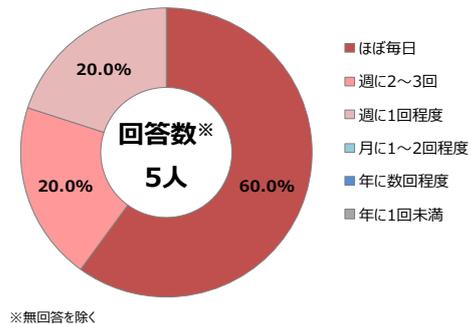
▲「通学」の目的地（全手段）

2) 通学頻度

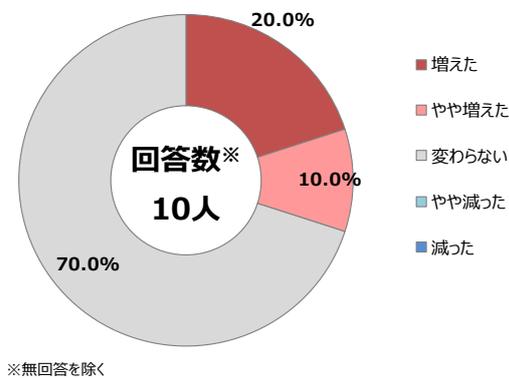
・「ほぼ毎日」の頻度が、再編前後ともに 6 割以上となっており、再編前後における「通学頻度」の変化は 7 割が「変わらない」と回答。



▲「通学頻度」（再編前）



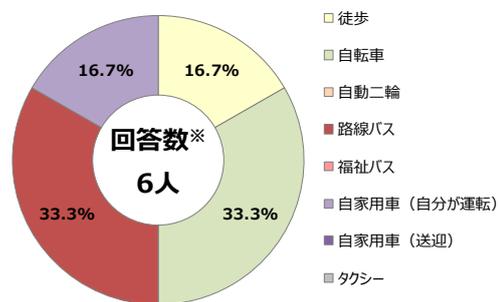
▲「通学頻度」（再編後）



▲「通学頻度」の変化

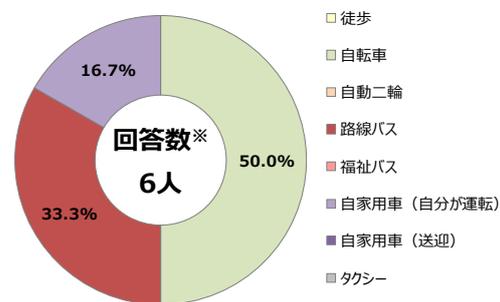
3) 通学目的における交通手段

・「通学目的」の路線バスの利用割合を見ると、再編前 33.3%に対し、再編後は 66.7%と倍増。
 ・「通学手段」の変化があった 20%（2 人）は、いずれも「自転車」から「路線バス」への転換であった。



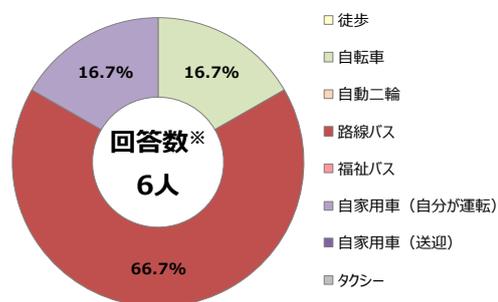
※無回答を除く

▲「通学手段」(再編前・行き)



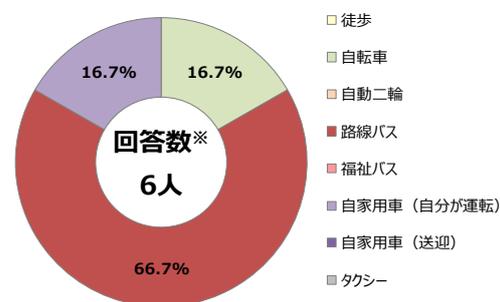
※無回答を除く

▲「通学手段」(再編前・帰り)



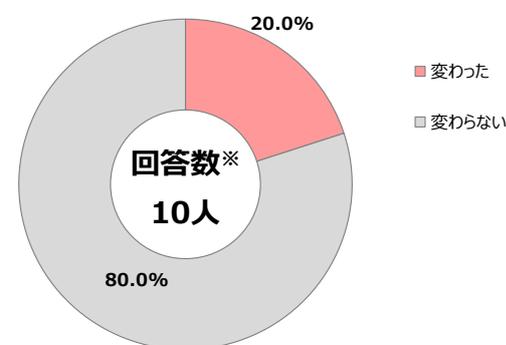
※無回答を除く

▲「通学手段」(再編後・行き)



※無回答を除く

▲「通学手段」(再編後・帰り)



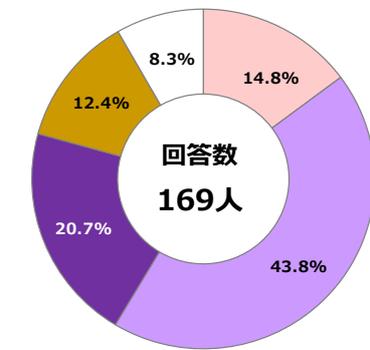
※無回答を除く

▲「通学手段」の変化

(6) 現状における移動実態 (その他目的)

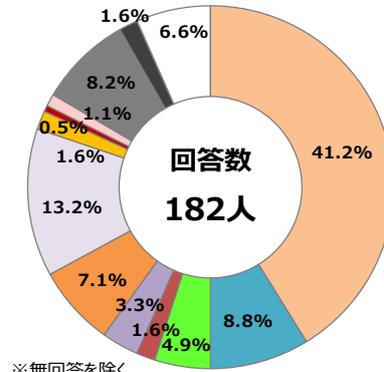
1) 主な目的及び目的地

・その他目的としては、「銀行などの金融機関」が 43.8%と最も多く、次いで「習い事・レジャー」20.7%、「役場等の手続き」14.8%、「親戚・友人宅訪問」12.4%の順である。
 ・「その他目的」行動の主な目的地は、「土庄町役場周辺」「土庄港周辺」で 50%を占めている。



※無回答を除く

▲「その他」の目的



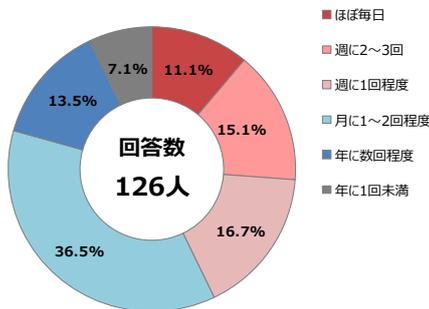
※無回答を除く

▲「その他目的」の目的地



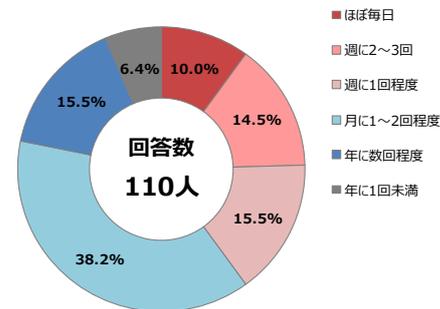
2) その他頻度

・「月に 1~2 回程度以下」の割合が、再編前後ともに 6 割程度であり、再編前後における「その他目的頻度」の変化は 9 割弱が「変わらない」と回答。



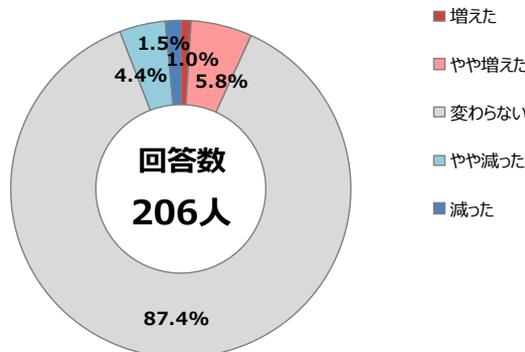
※無回答を除く

▲「その他目的頻度」(再編前)



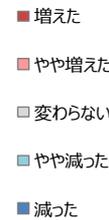
※無回答を除く

▲「その他目的頻度」(再編後)



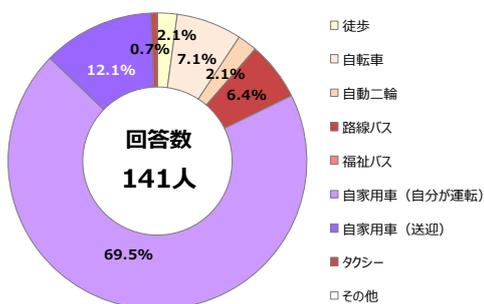
※無回答を除く

▲「その他目的頻度」の変化

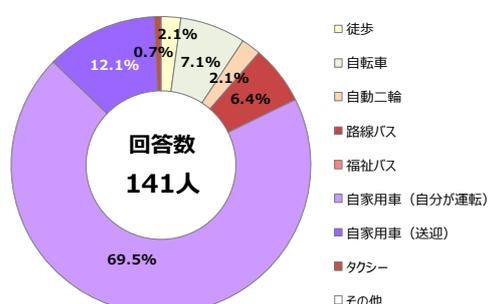


3) その他目的における交通手段

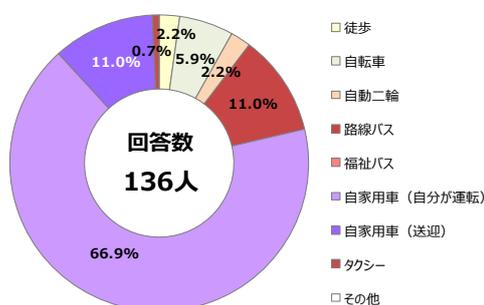
・「その他目的」の路線バスの利用割合を見ると、再編前が 6.4% に対し、再編後は 11% とやや増加。
 ・「その他目的手段」の変化があったは 8%（16 人）であった。



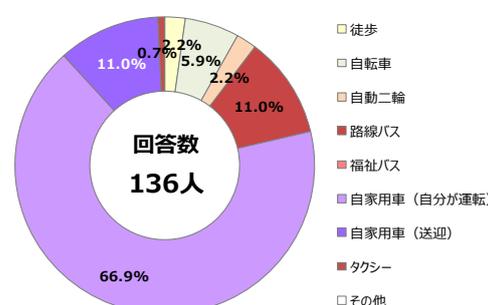
▲「その他目的手段」(再編前・行き)



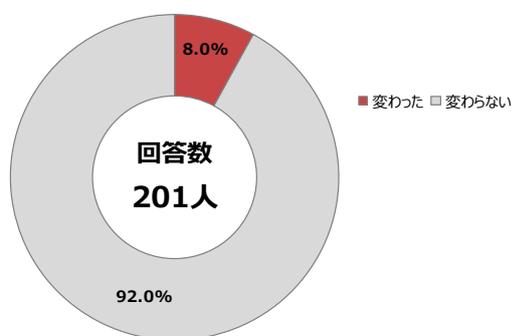
▲「その他目的手段」(再編前・帰り)



▲「その他目的手段」(再編後・行き)



▲「その他目的手段」(再編後・帰り)



※無回答を除く

▲「その他目的手段」の変化

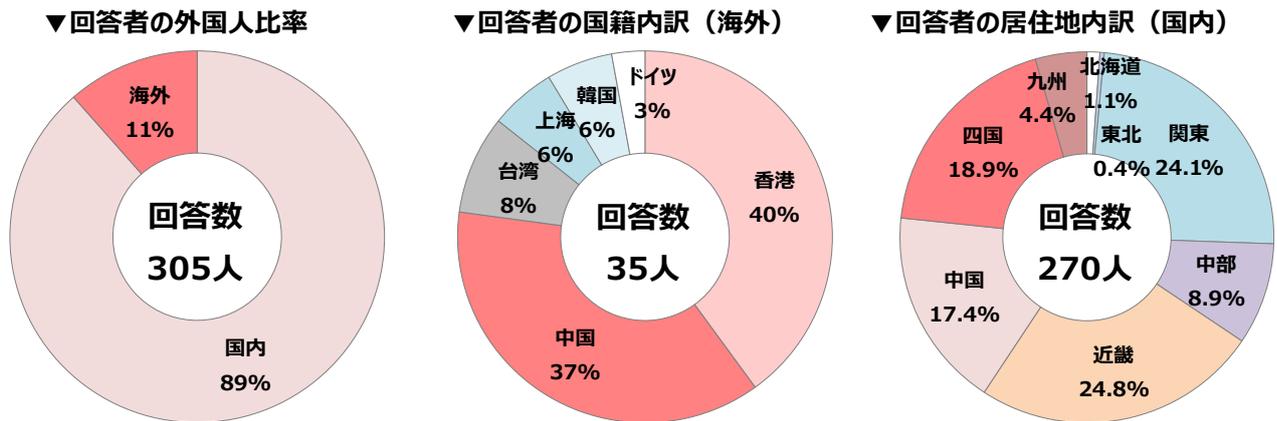
2. 観光客アンケート調査における現状把握（H30 調査より）

（1）観光客アンケート調査について

- ・本調査は、観光客に対する移動ニーズを把握するため、平成 30 年度に実施したアンケート調査である。
- ・調査員による聞き取り調査を実施し、305 人からの回答を得ている。回答者属性を以下に示す。

1) 居住地

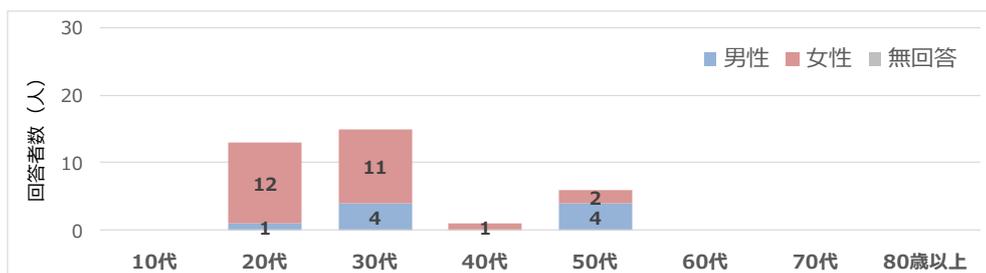
- ・回答者の 11%が外国人観光客であり、「香港」「中国」で 77%を占めている。
- ・国内についてみると、「関東」「近畿」がそれぞれ 24.1%、24.8%、「中国」「四国」がそれぞれ 17.4%、18.9%で、全体の 85.2%を占める。



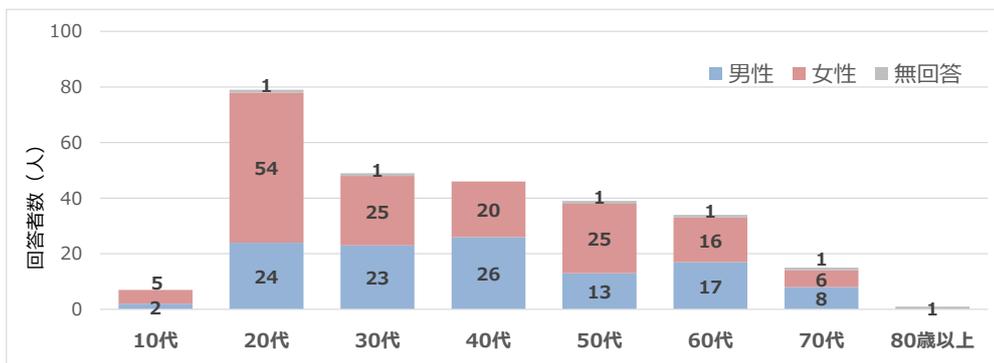
2) 性別・年齢階層

- ・回答者の性別・年齢階層別内訳を見ると、外国人観光客の場合、20～30 代が多く、割合的に女性が占める割合が高い。
- ・国内観光客については、幅広い年齢層が来訪しているが、20 代の割合、特に女性の割合が高い。（その他の年代については、男女比はほぼ同等。）

▼外国人観光客の性別・年齢階層別内訳

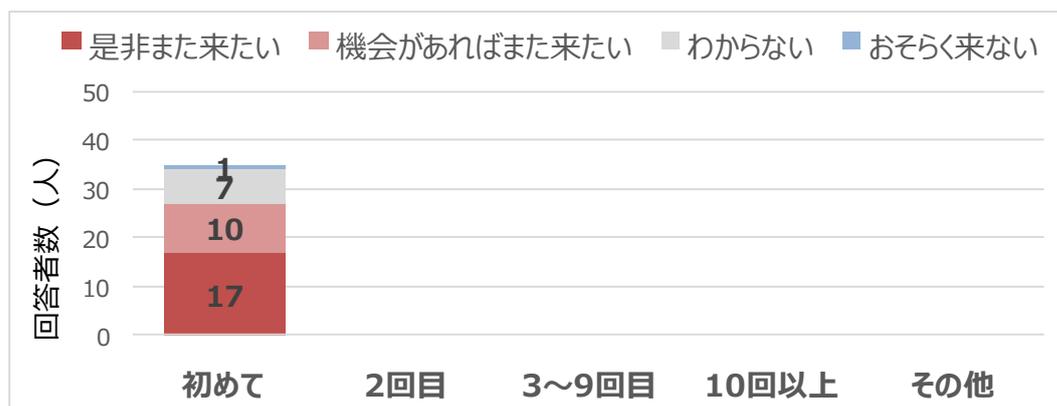


▼国内観光客の性別・年齢階層別内訳

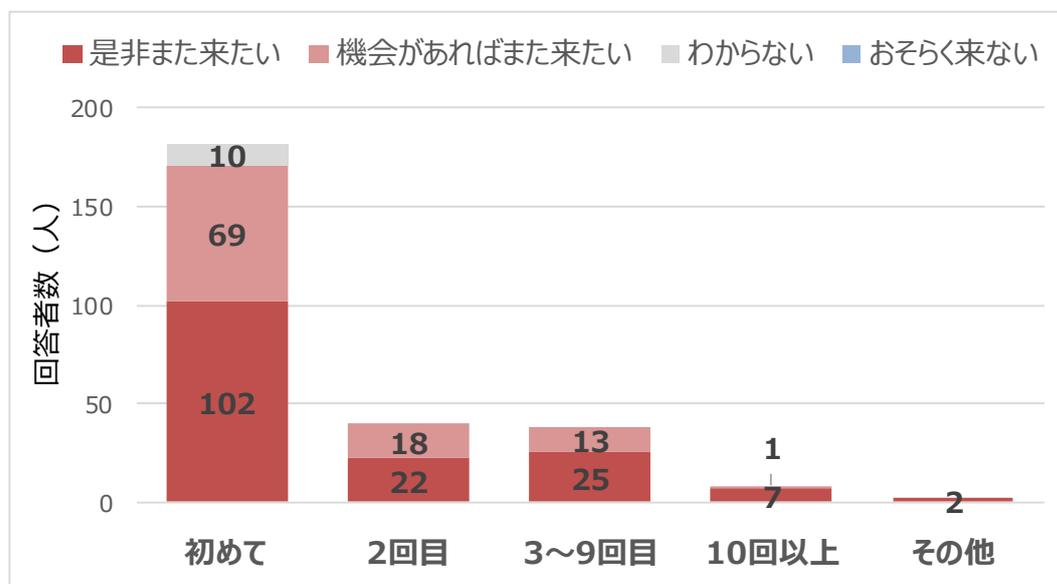


(2) 来訪頻度

- ・来訪頻度及び満足度を見ると、外国人観光客のほとんどが「初めての来訪」であるが、約 8 割が「再度訪れたい」との回答を得ている。
- ・また、国内観光客についても「初めての来訪」が 67.3%と最も多いが、2 回目以上複数回の来訪者も 32.7%みられる。ともに高い満足度を得ていることから、リピーターとなる可能性が高いと考えられる。



▲来訪頻度及び満足度 (海外)

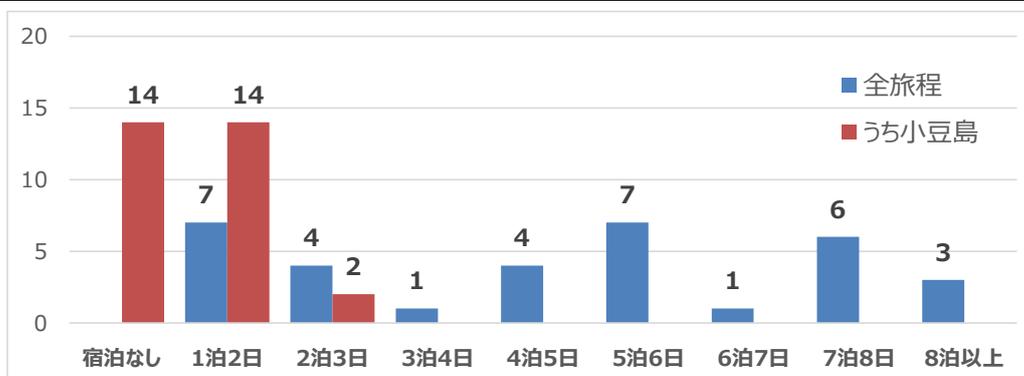


▲来訪頻度及び満足度 (国内)

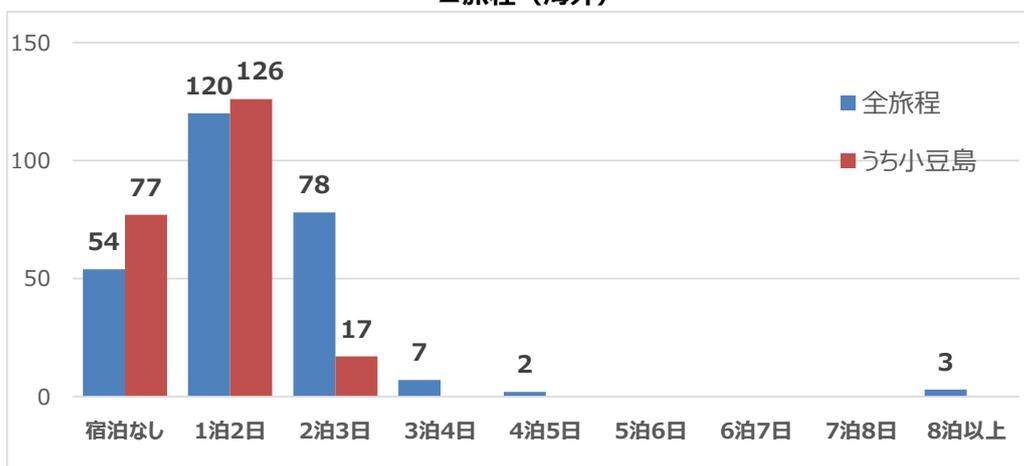
出典) H30 観光客アンケート調査 (小豆島地域公共交通協議会調べ)

(3) 旅程

- ・外国人観光客の旅程は、「1泊2日」もみられるものの、全旅程のうち4泊以上の長期滞在が多い傾向にある。一方で小豆島に滞在する日数は、「宿泊なし」が半数程度あるものの、「1泊2日」以上も半数程度みられる。
- ・また、国内観光客については、全旅程のうちほとんどが「2泊3日」以内と短いものの、こちらも半数程度が小豆島に宿泊している。（「1泊2日」が半数程度。）



▲旅程 (海外)



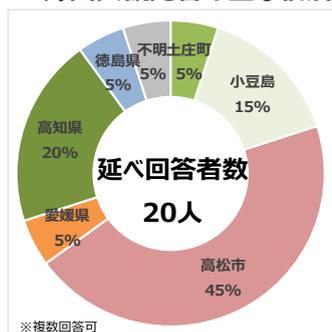
▲旅程 (国内)

出典) H30 観光客アンケート調査 (小豆島地域公共交通協議会調べ)

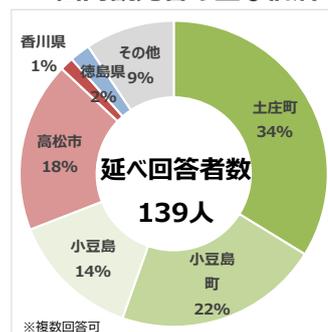
(4) 宿泊地

- ・外国人観光客の主な宿泊地は「高松市」が45%と最も多く、「愛媛県」「高知県」「徳島県」など広い周遊がみとれる。
- ・一方、国内観光客の主な宿泊地は、「小豆島内」が70%を占め、「高松市」も含めると全体の約9割を占める。

▼外国人観光客の主な宿泊地



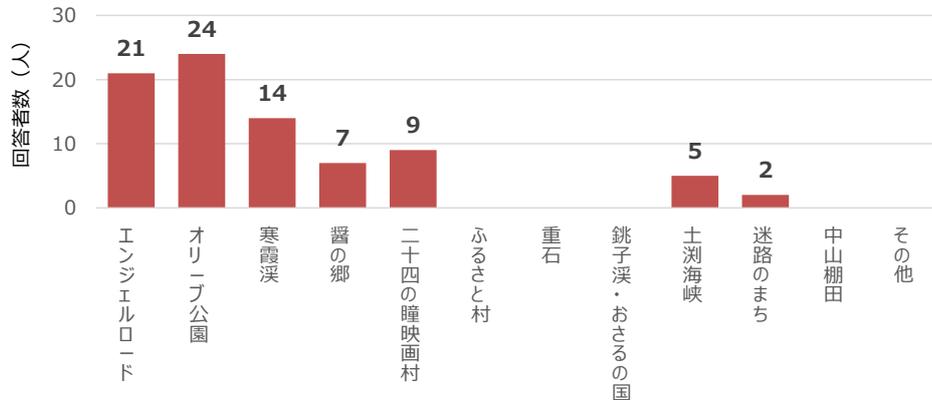
▼国内観光客の主な宿泊地



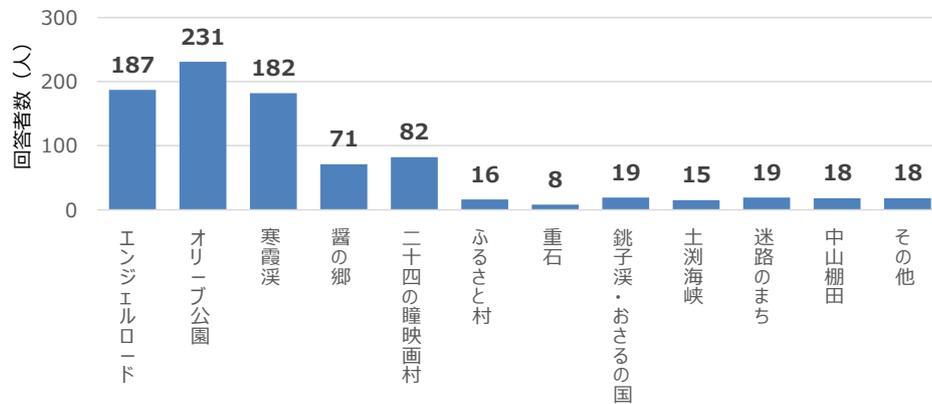
出典) H30 観光客アンケート調査 (小豆島地域公共交通協議会調べ)

(5) 観光施設

・外国人観光客及び国内観光客の訪れた観光施設をみると、いずれも同様な傾向にあり、「オーブ公園」や「エンジェルロード」「寒霞渓」の人气が高い。



▲観光施設 (海外)



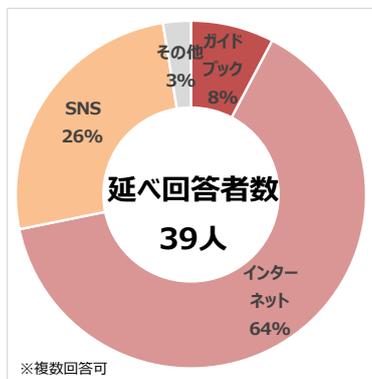
▲観光施設 (国内)

出典) H30 観光客アンケート調査 (小豆島地域公共交通協議会調べ)

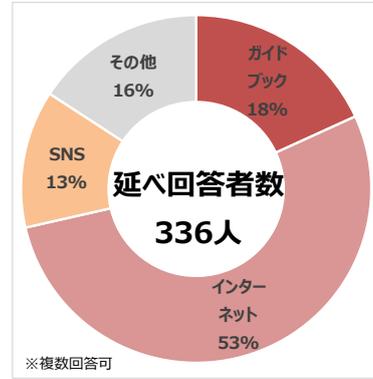
(6) 情報入手方法

・情報の入手方法をみると、外国人観光客は「インターネット」や「SNS」の利用が高く、9割を占める。
 ・国内観光客も同様に「インターネット」の割合が高く、「SNS」の割合は外国人観光客ほど高くない。「その他」としては、「知人からの口コミ」や「旅行会社」などから情報を入手しているといった回答がみられた。

▼外国人観光客の主な情報入手方法



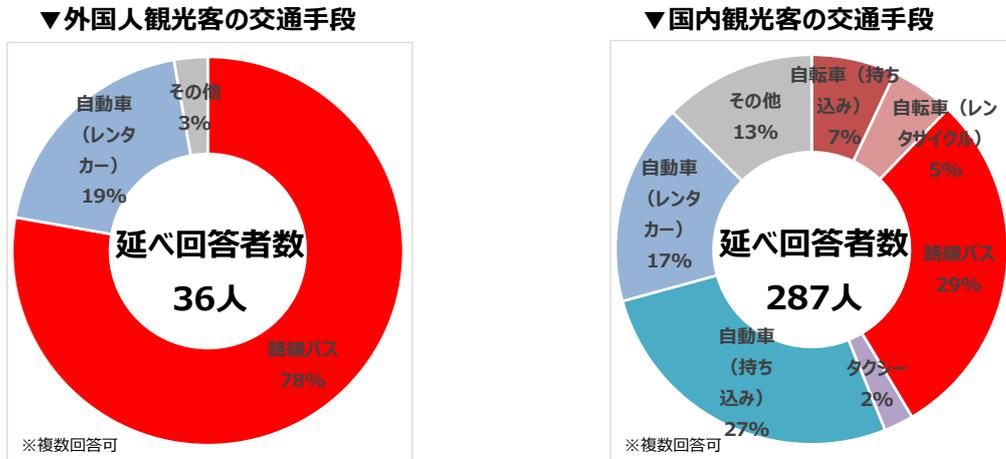
▼国内観光客の主な情報入手方法



出典) H30 観光客アンケート調査 (小豆島地域公共交通協議会調べ)

(7) 交通手段

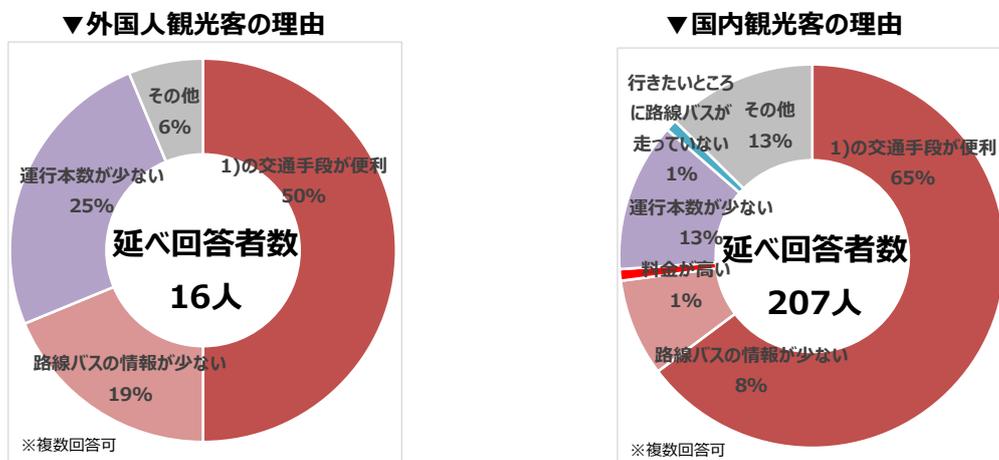
・島内における移動交通手段についてみると、外国人観光客は78%が「路線バス」利用、国内観光客についても29%が「路線バス」利用であった。



出典) H30 観光客アンケート調査 (小豆島地域公共交通協議会調べ)

(8) 路線バスを利用しない理由

・路線バスを利用しない理由についてみると、外国人観光客は「路線バスの情報が少ない」が19%、「運行本数が少ない」が25%、国内観光客についても「路線バスの情報が少ない」が8%、「運行本数が少ない」が13%であった。



出典) H30 観光客アンケート調査 (小豆島地域公共交通協議会調べ)

3. 高校生アンケート調査における現状把握（R03 調査より）

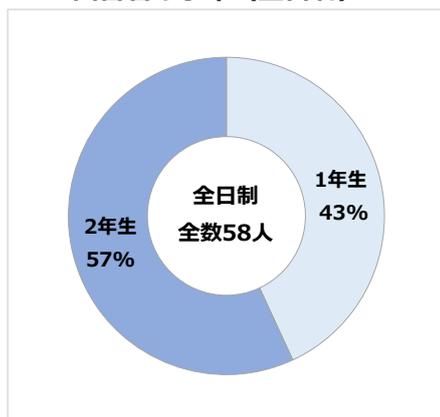
（1）高校生アンケート調査について

- ・本調査は、小豆島中央高校に通学している生徒を対象に、通学手段に対するニーズを把握するため、全日制の1～2年生、定時制の1～4年生に対し実施したアンケート調査である。
- ・紙媒体によるアンケート依頼、web による質問・回答を実施し、59 人からの回答を得ている。回答者属性を以下に示す。

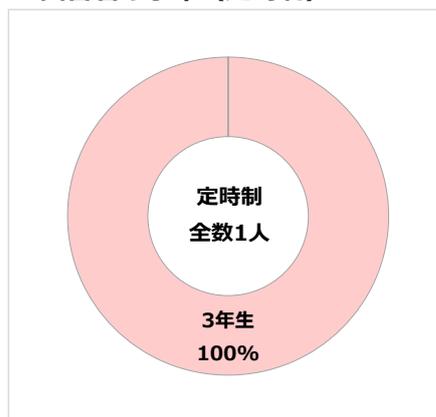
1) 学年

- ・回答者のほとんどが全日制の1～2年生であり、1年生が43%、2年生が57%であった。

▼回答者の学年（全日制）



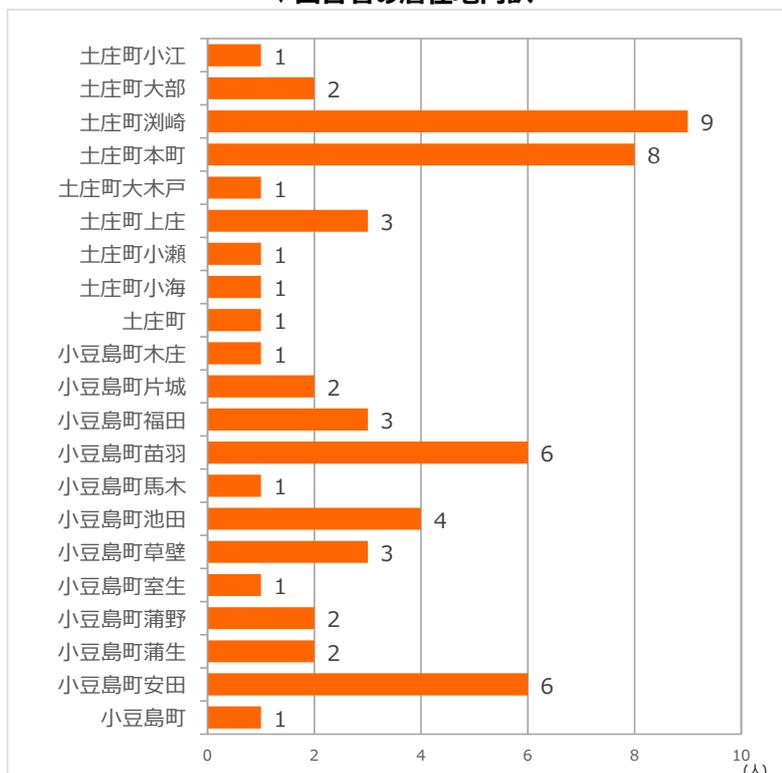
▼回答者の学年（定時制）



2) 居住地

- ・回答者の居住地は以下のとおりである。

▼回答者の居住地内訳

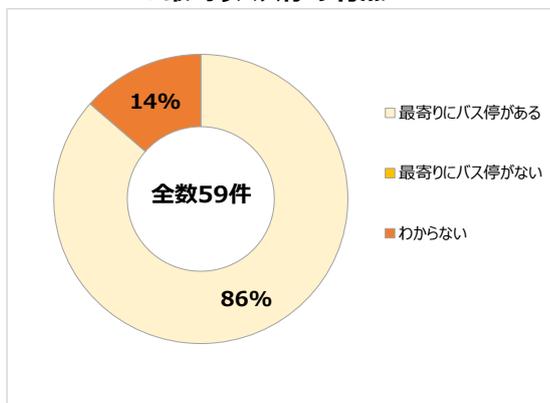


出典) R03 高校生アンケート調査（小豆島地域公共交通協議会調べ）

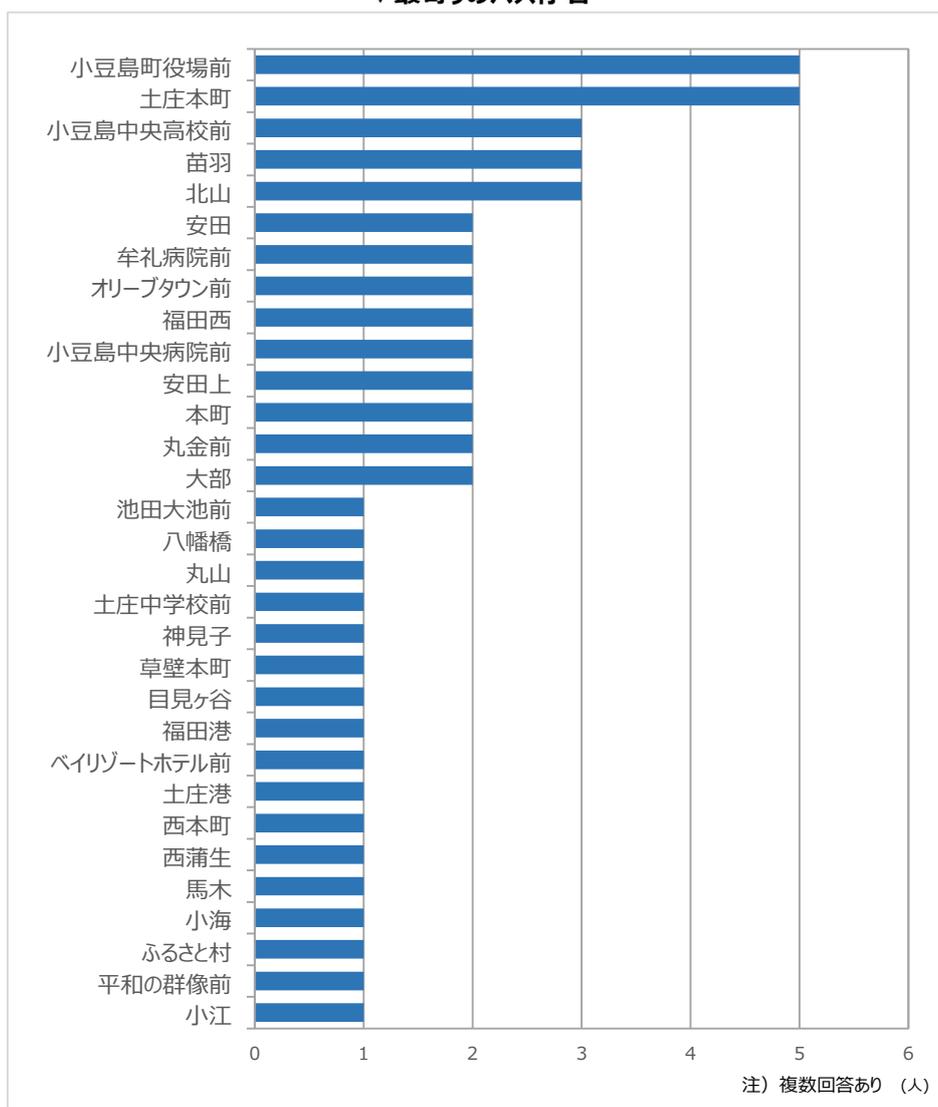
3) 最寄りバス停

- ・最寄りバス停の有無について尋ねたところ、86%が「最寄りにバス停がある」と回答しており、「最寄りにバス停がない」との回答はなかった。ただし、14%は「わからない」といった回答であった。
- ・回答のあった最寄りバス停名を以下に示す。

▼最寄りバス停の有無



▼最寄りのバス停名

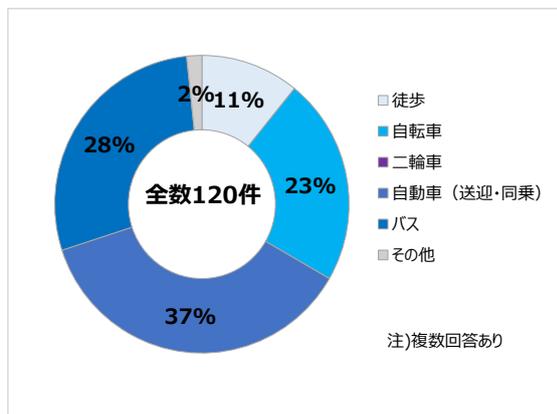


出典) R03 高校生アンケート調査 (小豆島地域公共交通協議会調べ)

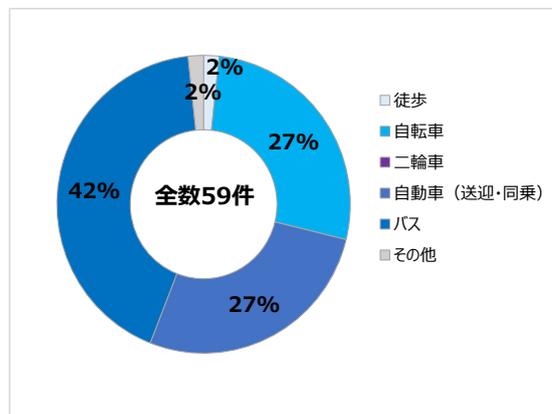
4) 通学手段

- ・通学手段については、「自動車（送迎・同乗）」が 37%と最も多く、「徒歩・自転車」が 34%、「バス」が 28%となっている。
- ・一方で、最も多く使う通学手段については、「バス」が 42%と最も多い。
- ・また、バス停までの移動手段として 2 割が「自転車」を利用している。

▼通学手段



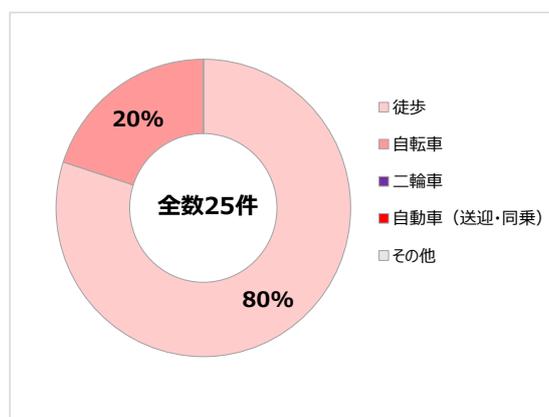
▼最も多く利用する通学手段



▼よく利用するバス停



▼バス停までの移動手段

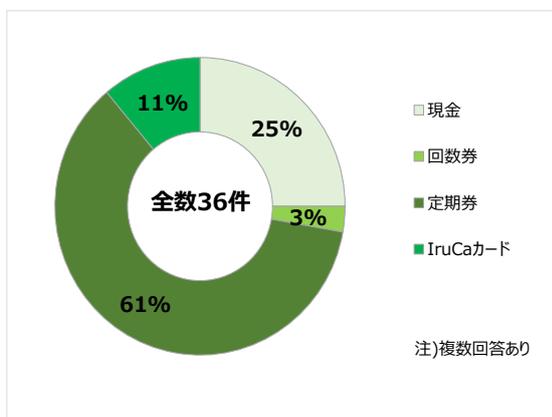


出典) R03 高校生アンケート調査 (小豆島地域公共交通協議会調べ)

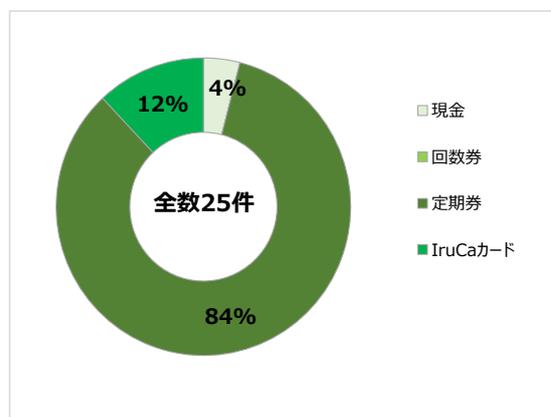
5) バス運賃の支払い方法

- ・バス運賃の支払い方法については、全体では「定期券」が 61%と最も高く、次いで「現金」が 25% 「IruCa カード」が 11%となっている。
- ・一方で、最も多くバスを使う方については、「定期券」が 84%とほとんどを占め、「現金」は 4%、「IruCa カード」は 12%となっている。

▼バス運賃の支払い方法



▼最も多く利用する方のバス運賃の支払い方法



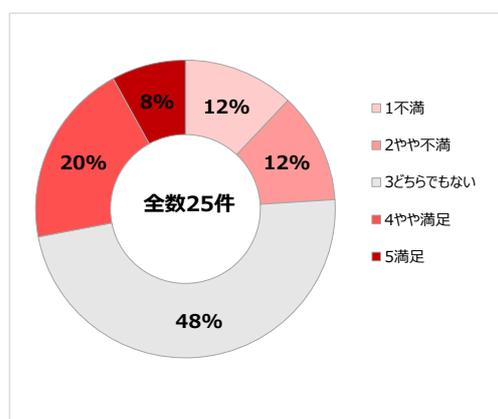
6) 通学に支払う月当たりのバス運賃

- ・通学に支払う月当たりのバス運賃は、「6,000~9,000 円」が 72%と最も高く、次いで「3,000~6,000 円」が 16%、「12,000 円以上」が 12%となっている。
- ・通学に支払う月当たりのバス運賃への満足度は、「満足・やや満足」が 28%と、「不満・やや不満」の 24%を 4 ポイント上回っている。

▼通学に支払う月当たりバス運賃



▼通学に支払うバス運賃への満足度

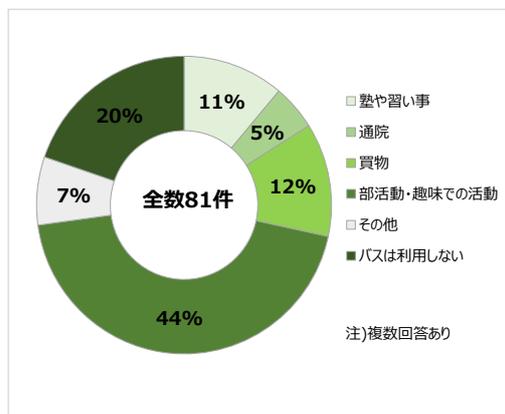


出典) R03 高校生アンケート調査 (小豆島地域公共交通協議会調べ)

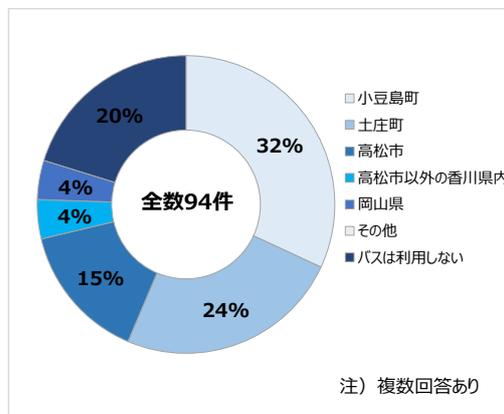
7) 通学以外のバス利用状況

- ・通学目的以外でバスを利用する目的については、「部活動・趣味での活動」が 44%と最も高く、次いで「買い物」が 12%、「塾や習い事」が 11%となっている。
- ・通学以外にバスで移動する場所は以下のとおりである。

▼通学以外のバス利用目的



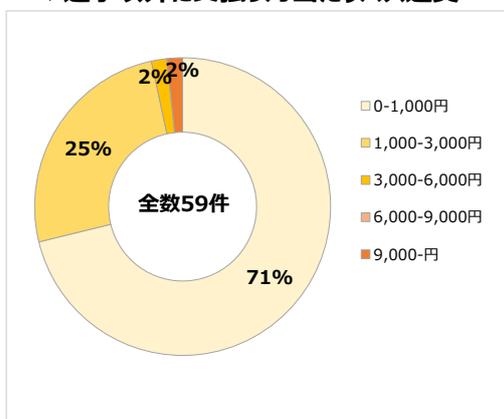
▼通学以外にバスで移動する場所



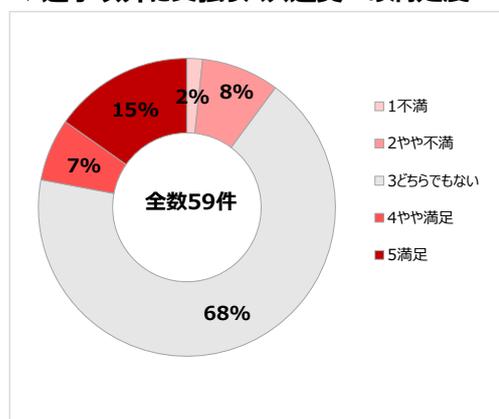
8) 通学以外に支払う月当たりのバス運賃

- ・通学以外に支払う月当たりのバス運賃は、「1,000 円未満」が 71%と最も高く、次いで「1,000~3,000 円」が 25%となっている。
- ・通学以外に支払う月当たりのバス運賃への満足度は、「満足・やや満足」が 22%と、「不満・やや不満」の 10%を 12 ポイント上回っている。

▼通学以外に支払う月当たりバス運賃



▼通学以外に支払うバス運賃への満足度



出典) R03 高校生アンケート調査 (小豆島地域公共交通協議会調べ)

4. ビッグデータによる人流把握

(1) データ諸元

・この度、人流データの分析にあたり、ビッグデータである『プロファイルパスポート』データ（(株)プログウォッチャーデータ）を活用して既往データの補完を行っている。

<参考：データ取得状況>

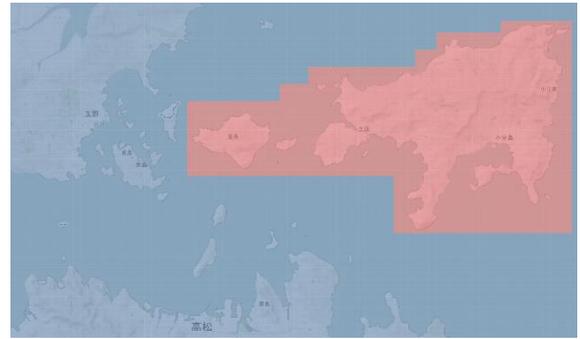
・『プロファイルパスポート』データ（(株)プログウォッチャーデータ）におけるデータ取得状況を以下に示す。
（土庄町・小豆島町に座標を有するサンプル数であるため、実数をイメージするものではない。）

▼ビッグデータのサンプル数

調査日			ID数	
2018平日	2018/10/1	月	1,264.2	1,320.0
2018平日	2018/10/2	火	1,335.5	
2018平日	2018/10/3	水	1,310.5	
2018平日	2018/10/4	木	1,409.9	
2018平日	2018/10/5	金	1,280.6	
2018休日	2018/10/6	土	1,341.5	1,447.0
2018休日	2018/10/7	日	1,566.5	
2018休日	2018/10/27	土	1,430.8	
2018休日	2018/10/28	日	1,448.8	
2019GW+瀬戸芸	2019/5/2	木祝	2,215.3	2,072.0
2019GW+瀬戸芸	2019/5/3	金祝	2,269.2	
2019GW+瀬戸芸	2019/5/4	土	2,175.0	
2019GW+瀬戸芸	2019/5/5	日	2,082.0	
2019GW+瀬戸芸	2019/5/6	月祝	1,618.3	
2019平日+瀬戸芸	2019/10/7	月	1,710.3	1,734.0
2019平日+瀬戸芸	2019/10/8	火	1,677.8	
2019平日+瀬戸芸	2019/10/9	水	1,754.0	
2019平日+瀬戸芸	2019/10/10	木	1,814.8	
2019平日+瀬戸芸	2019/10/11	金	1,714.0	
2019休日+瀬戸芸	2019/10/5	土	1,751.7	1,873.0
2019休日+瀬戸芸	2019/10/6	日	1,937.1	
2019休日+瀬戸芸	2019/10/26	土	1,856.1	
2019休日+瀬戸芸	2019/10/27	日	1,948.6	
2020平日+コロナ	2020/10/12	月	1,513.8	1,552.0
2020平日+コロナ	2020/10/13	火	1,533.2	
2020平日+コロナ	2020/10/14	水	1,564.1	
2020平日+コロナ	2020/10/15	木	1,550.3	
2020平日+コロナ	2020/10/16	金	1,597.2	
2020休日+コロナ	2020/10/10	土	1,435.8	1,528.0
2020休日+コロナ	2020/10/11	日	1,557.6	
2020休日+コロナ	2020/10/17	土	1,501.5	
2020休日+コロナ	2020/10/18	日	1,618.5	

(2) 集計対象エリア

・今回は、ブログウォッチャーのデータを用いて、対象期間・時間内における右に示すエリア（桃色着色）に滞在する人流データの集計を行った。



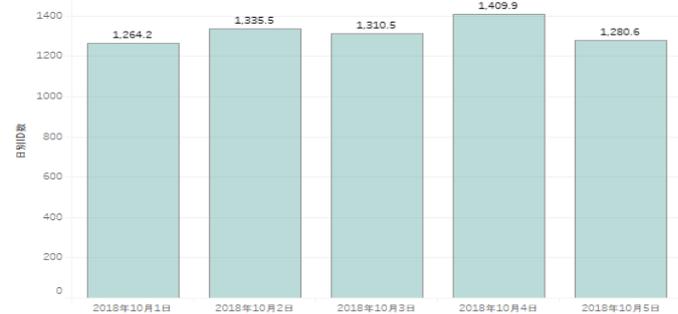
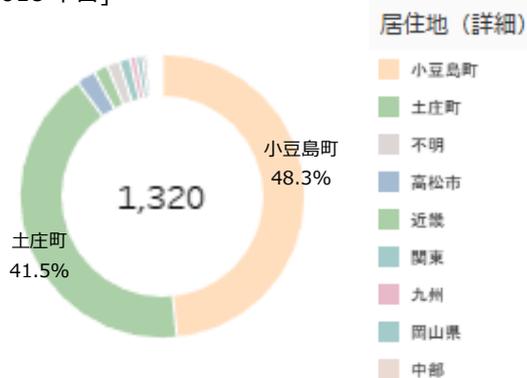
▲集計対象エリア（桃色着色）

(3) 基本集計

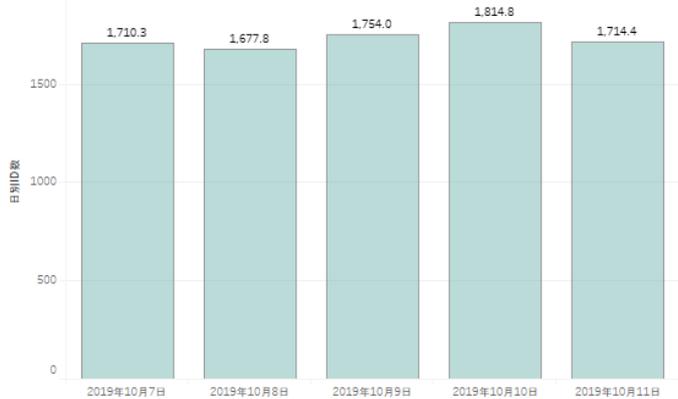
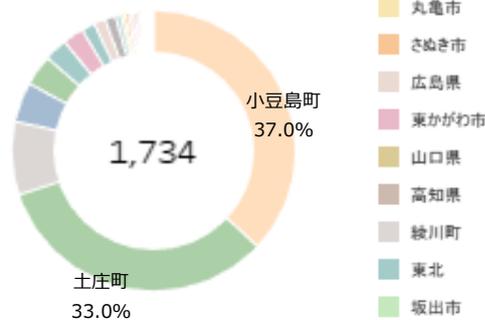
1) サンプル数（平日）

・2018 平日は、小豆島町・土庄町居住者が 89.8%であったのに対し、2019 平日（瀬戸芸）では、同 70.0%と島外居住者の割合が高くなっている。
 ・また、瀬戸芸後の 2020 平日（コロナ）においても、同 77.7%となっており、同様の傾向が継続している。
 ・全期間を通じ、日変動については大きくみられない。

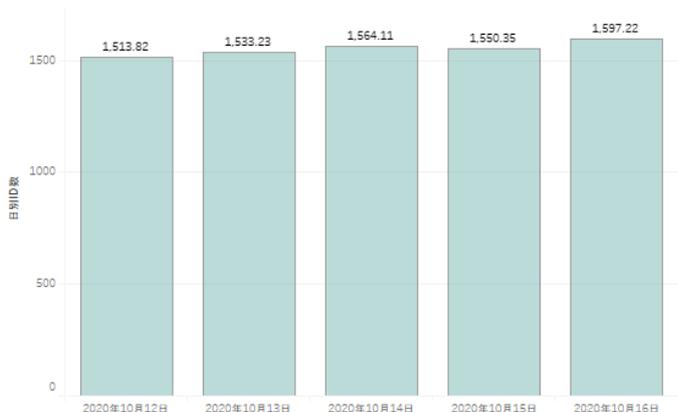
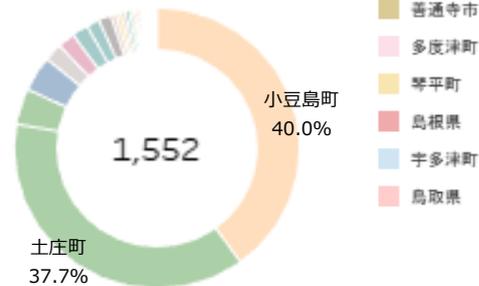
[2018 平日]



[2019 平日（瀬戸芸）]



[2020 平日（コロナ）]

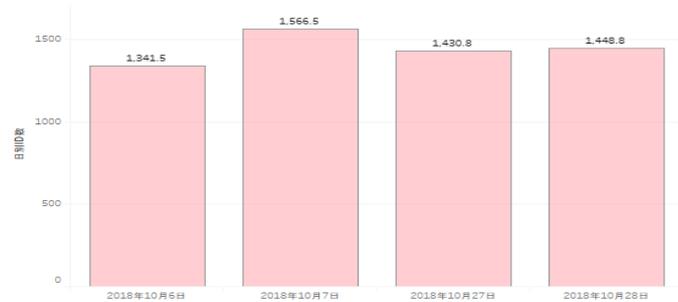
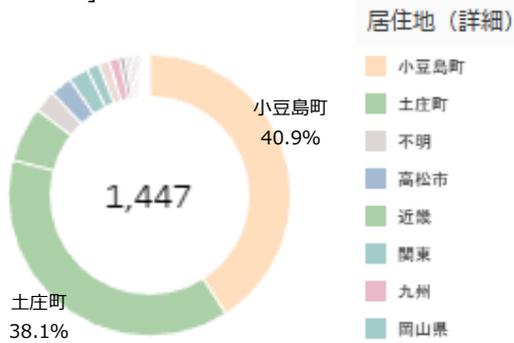


2) サンプル数 (休日)

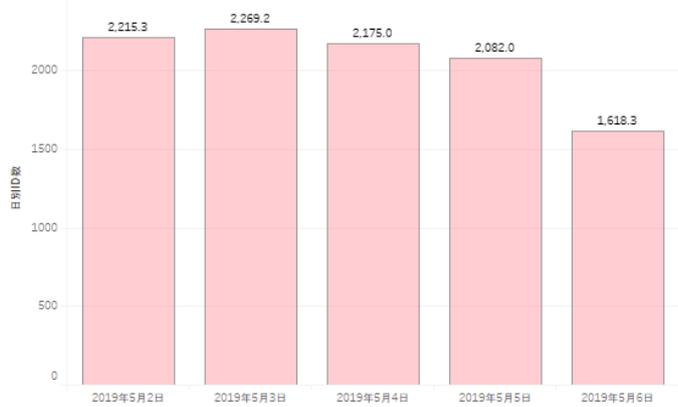
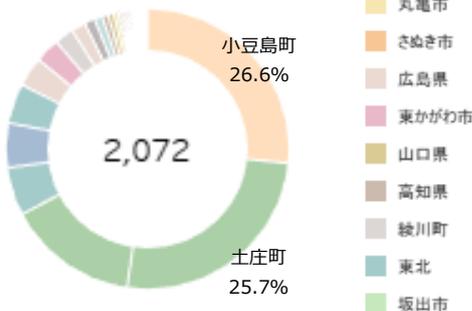
・2018 休日の島外居住者の割合は 21.0%であったのに対し、2019 休日（瀬戸芸+GW）では同 47.7%、2019 休日（瀬戸芸）では同 36.7%と非常に高くなっている。また、2020 休日では、同 24.4%と、若干、島外居住者の割合が低くなっている。

・日変動については土曜に比べ日曜が高い傾向がみられ、特に、2019 休日（瀬戸芸+GW）の 5/2～5の連休が高い。

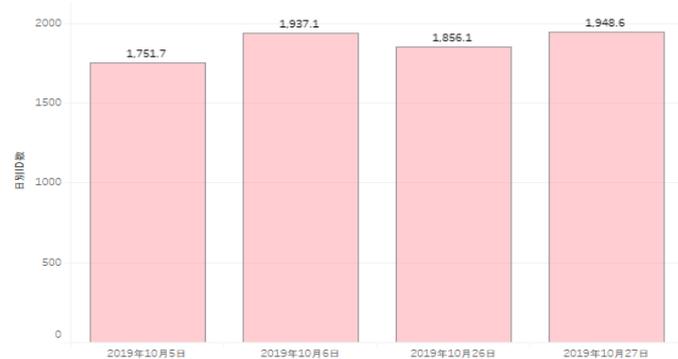
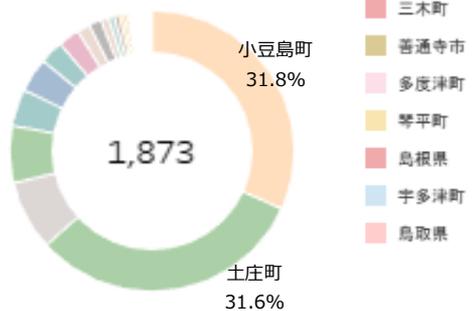
[2018 休日]



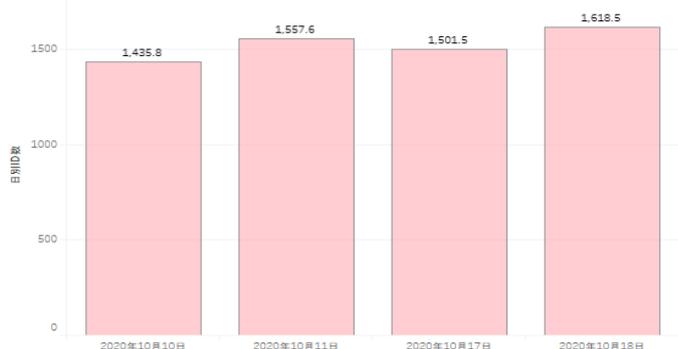
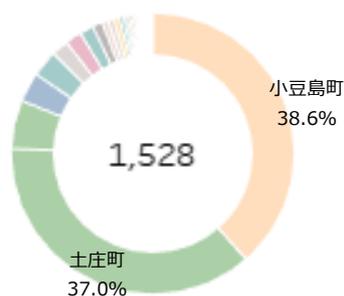
[2019 休日 (瀬戸芸+GW)]



[2019 休日 (瀬戸芸)]



[2020 休日 (コロナ)]



(4) 島内における移動実態

1) 島民の移動（平日）

・島民（土庄町、小豆島町居住者、以下同）の平日の滞在状況をコロナ前後で以下に示す。

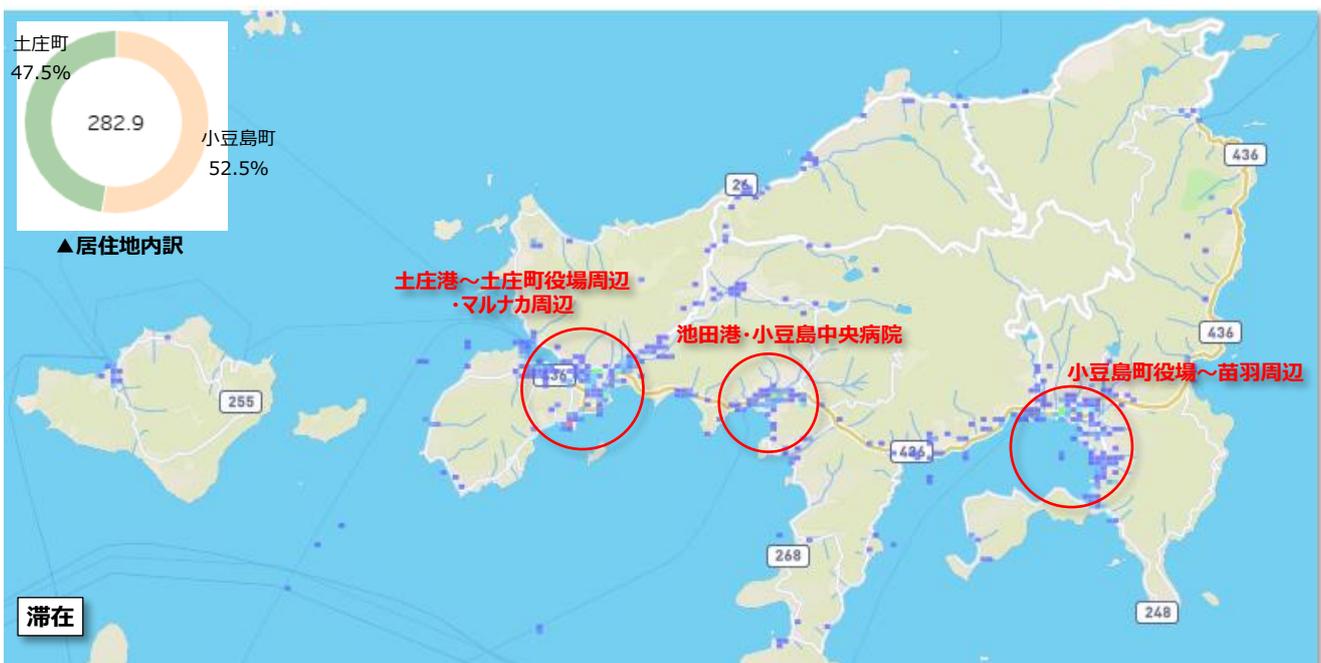
[2018 平日]

・平均サンプル数は 508.1 であり、小豆島町居住者が約 6 割。
・滞在の多い箇所としては、土庄港～土庄町役場周辺・マルナカ周辺や、池田港・小豆島中央病院、小豆島町役場～苗羽周辺があげられ、拠点として位置付けられる。



[2020 平日（コロナ）]

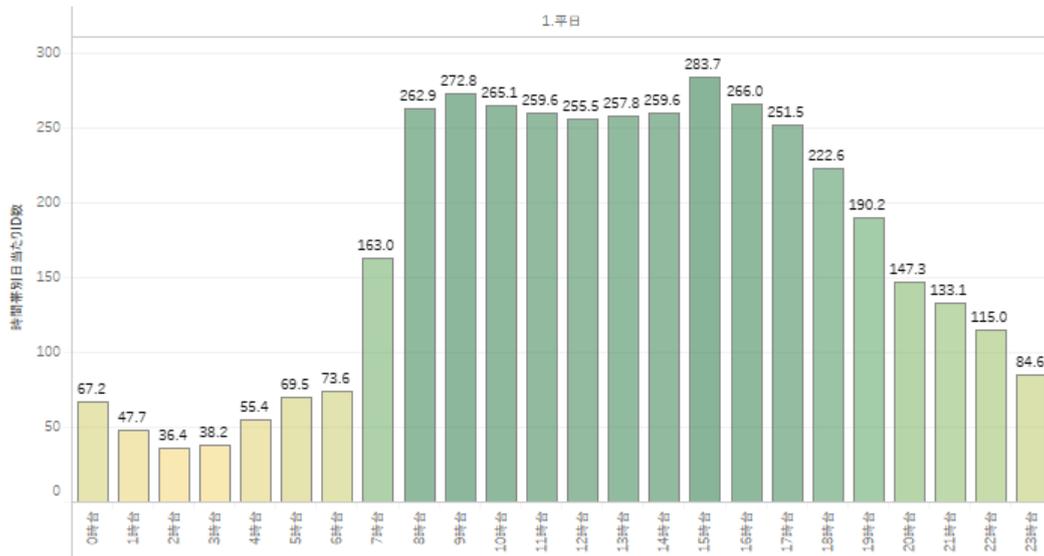
・平均サンプル数は 282.9 と 2018 平日を下回る。土庄町居住者 47.5%、小豆島町居住者 52.5%。
・滞在の多い箇所としては、2018 平日と大きく変わらないが、滞在箇所が広範囲に分布している。



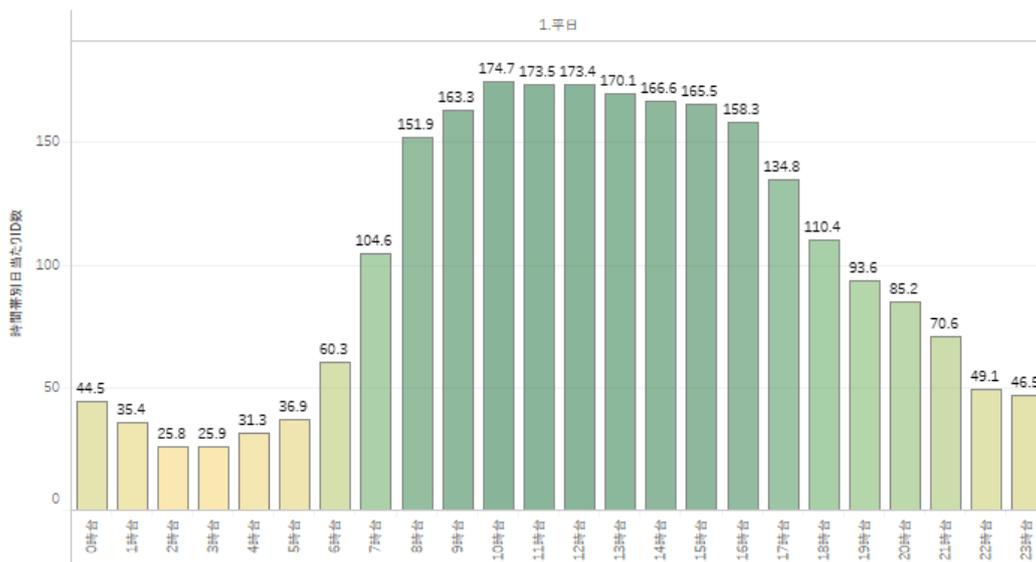
※「滞在」対象者が 10 分以上滞在したメッシュ。

<参考；移動時間帯（平日）>

・コロナ前後における時間帯別のサンプル数をみると、サンプル数自体が減少傾向にあるとともに、時間帯についても 2018 平日では 8 時～18 時のサンプル数が 200 以上であるのに対し、2020 平日（コロナ）では、8 時～16 時のサンプル数が 150 以上である。



▲時間帯別サンプル数（2018 平日）



▲時間帯別サンプル数（2020 平日（コロナ））

2) 島民の移動（休日）

・島民（土庄町、小豆島町居住者、以下同）の休日の滞在状況をコロナ前後で以下に示す。

[2018 休日]

・平均サンプル数は 387.3 であり、土庄町居住者 46.1%、小豆島町居住者 53.9%。

・滞在の多い箇所としては、平日と同様に、土庄港～土庄町役場周辺・マルナカ周辺や、池田港・小豆島中央病院、小豆島町役場～苗羽周辺があげられ、拠点として位置付けられる。



[2020 休日（コロナ）]

・平均サンプル数は 138.9 と 2018 休日を下回る。土庄町居住者 66.1%、小豆島町居住者 33.9%。

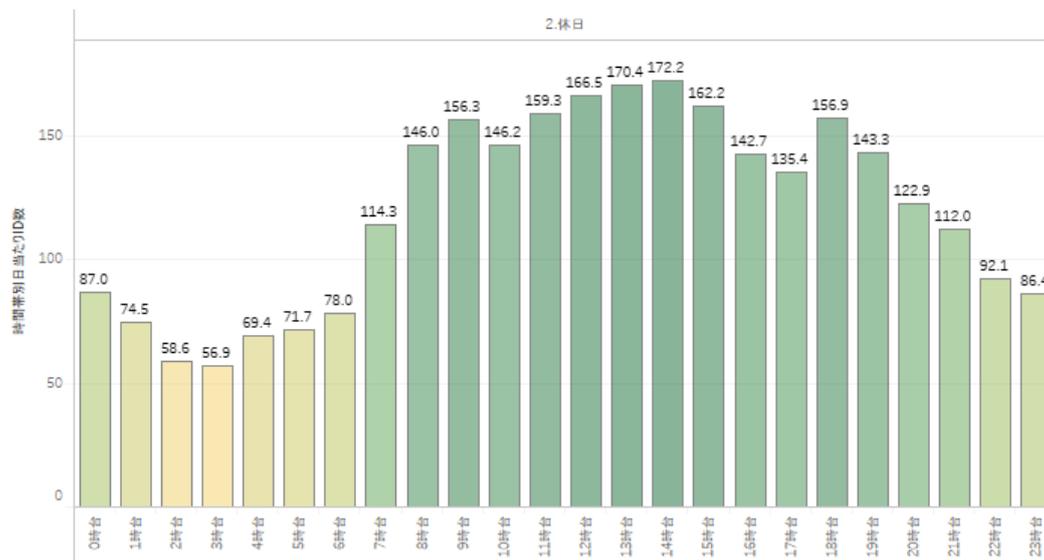
・滞在の多い箇所としては、2018 休日と大きく変わらないが、滞在箇所が広範囲に分布する。



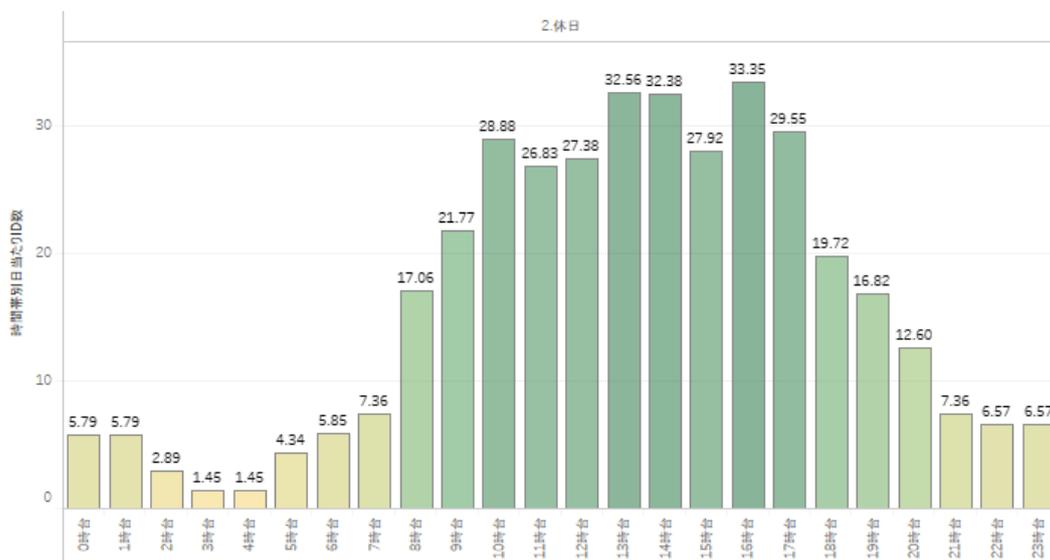
※「滞在」対象者が 10 分以上滞在したメッシュ。

<参考；移動時間帯（休日）>

・コロナ前後における時間帯別のサンプル数をみると、サンプル数自体が大きく減少傾向にあるとともに、時間帯についても2018 休日では7時～21時のサンプル数が100以上であるのに対し、2020 休日（コロナ）では、9時～17時のサンプル数が20以上である。



▲時間帯別サンプル数（2018 休日）



▲時間帯別サンプル数（2020 休日（コロナ））

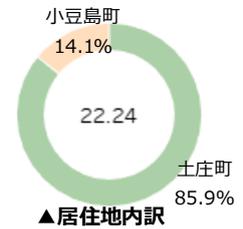
3) 島民の港利用

・2020 平日（コロナ）及び 2020 休日（コロナ）における島民の港利用※の状況を以下に示す。（時間指定は行わず。）

※港利用とは、港が含まれるメッシュを利用した方が滞在したメッシュを分析。（必ずしも航路を利用した訳ではない。）

【土庄港（平日）】

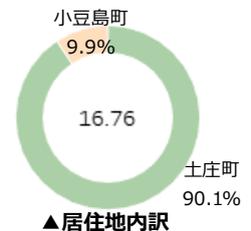
- ・土庄港利用者の 85.9%が土庄町居住者。
- ・主な滞在场所は、土庄地区・湊崎地区・豊島や草壁本町地区などの南廻り線沿線が多く、一部、大鐸地区・大部地区など北廻り線沿線にも若干の滞在がみられる。



※「滞在」対象者が 10 分以上滞在したメッシュ。

【土庄港（休日）】

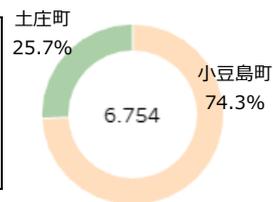
- ・土庄港利用者の 90.1%が土庄町居住者。
- ・主な滞在场所は、土庄地区・湊崎地区や草壁本町地区などの南廻り線沿線が多く、一部、大鐸地区・北浦地区・大部地区など北廻り線沿線にも若干の滞在がみられる。



※「滞在」対象者が 10 分以上滞在したメッシュ。

[池田港（平日）]

- ・池田港利用者の74.3%が小豆島町居住者。
- ・主な滞在场所は、池田地区・土庄地区・草壁本町地区など南廻り線沿線が多いが、一部、大鐸地区・大部地区などの北廻り線沿線、蒲野地区など三都線沿線にも若干の滞在がみられる。



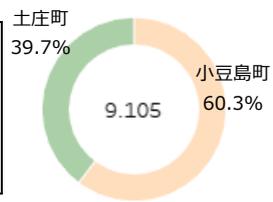
▲居住地内訳



※「滞在」対象者が10分以上滞在したメッシュ。

[池田港（休日）]

- ・池田港利用者の60.3%が小豆島町居住者。
- ・主な滞在场所は、池田地区・土庄地区・草壁本町地区など南廻り線沿線が多いが、一部、大部地区などの北廻り線沿線、蒲野地区など三都線沿線にも若干の滞在がみられる。



▲居住地内訳



※「滞在」対象者が10分以上滞在したメッシュ。

[草壁港（平日）]

- ・草壁港利用者はすべて小豆島町居住者。
- ・主な滞在場所は、草壁本町地区・土庄地区・湊崎地区・橘地区・福田地区・田浦地区など南廻り線・田ノ浦線沿線となっている。



▲居住地内訳



※「滞在」対象者が 10 分以上滞在したメッシュ。

[草壁港（休日）]

- ・草壁港利用者はすべて小豆島町居住者。
- ・主な滞在場所は、草壁本町地区・土庄地区・湊崎地区・田浦地区など南廻り線・田ノ浦線沿線となっている。



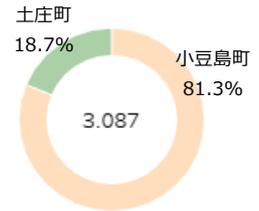
▲居住地内訳



※「滞在」対象者が 10 分以上滞在したメッシュ。

【福田港（平日）】

- ・福田港利用者の81.3%が小豆島町居住者。
- ・主な滞在所は、福田地区・草壁本町地区など南廻り線沿線が多いが、一部、湊崎地区などの四海線沿線にも若干の滞在がみられる。



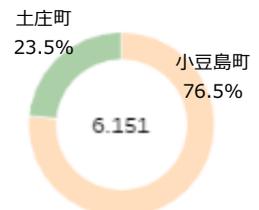
▲居住地内訳



※「滞在」対象者が10分以上滞在したメッシュ。

【福田港（休日）】

- ・福田港利用者の76.5%が小豆島町居住者。
- ・主な滞在所は、福田地区・草壁本町地区など南廻り線沿線が多いが、一部、土庄地区などの西浦線沿線にも若干の滞在がみられる。



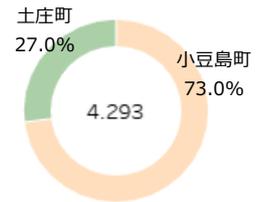
▲居住地内訳



※「滞在」対象者が10分以上滞在したメッシュ。

[大部港（平日）]

- ・大部港利用者の73.0%が小豆島町居住者。
- ・主な滞在场所は、大部地区・北浦地区・大鐸地区・瀧崎地区など北廻り線沿線が多いが、一部、当浜地区・草壁本町地区・池田地区などの南廻り線沿線にも若干の滞在がみられる。



▲居住地内訳



※「滞在」対象者が10分以上滞在したメッシュ。

[大部港（休日）]

- ・大部港利用者はすべて土庄町居住者。
- ・主な滞在场所は、大部地区・瀧崎地区など北廻り線沿線が多いが、一部、土庄地区などの西浦線沿線にも若干の滞在がみられる。



▲居住地内訳



※「滞在」対象者が10分以上滞在したメッシュ。

(5) 島外居住者の移動実態

1) 島内の移動 (休日①)

・島外居住者の休日の滞在状況を以下に示す。

[2018 休日]

・平均サンプル数は 292.6 であり、近畿が 31.5%、関東 11.1%、高松市 8.8%、岡山 6.9% である。
 ・滞在の多い箇所としては、土庄港～土庄町役場周辺・マルナカ周辺や、池田港・小豆島中央病院、小豆島町役場～苗羽周辺のほか、オリーブ公園周辺や福田や大部など北側にも滞在がみられる。



[2019 休日 (GW+瀬戸芸)]

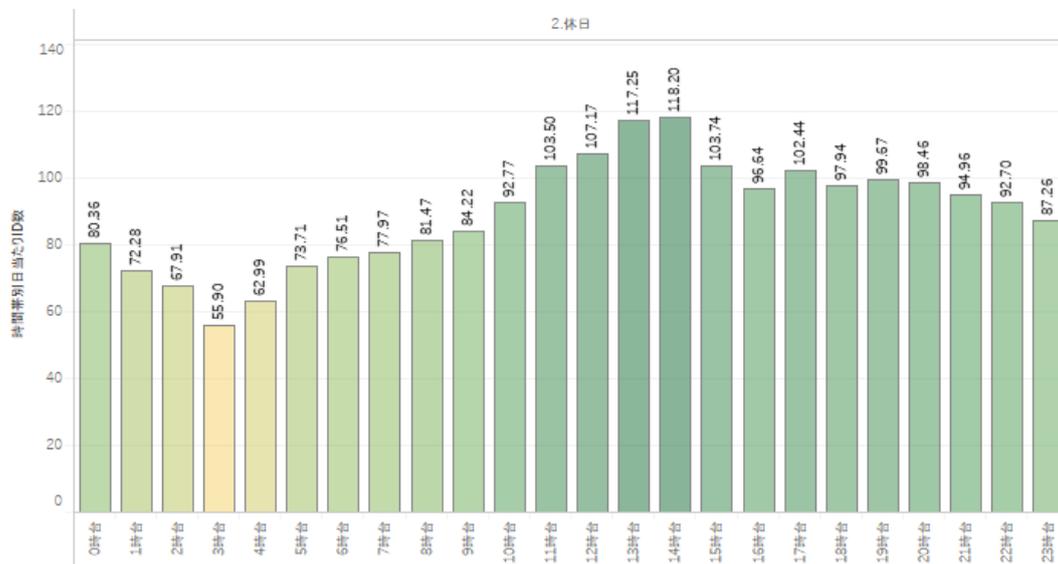
・平均サンプル数は 958.9 であり、近畿が 32.4%、関東 11.2%、高松市 8.4%、岡山 9.8% である。
 ・滞在の多い箇所としては 2018 休日と同様であるが、滞在箇所が広範囲に分布しており、特に豊島や中山地区等にも滞在が多くみられる。



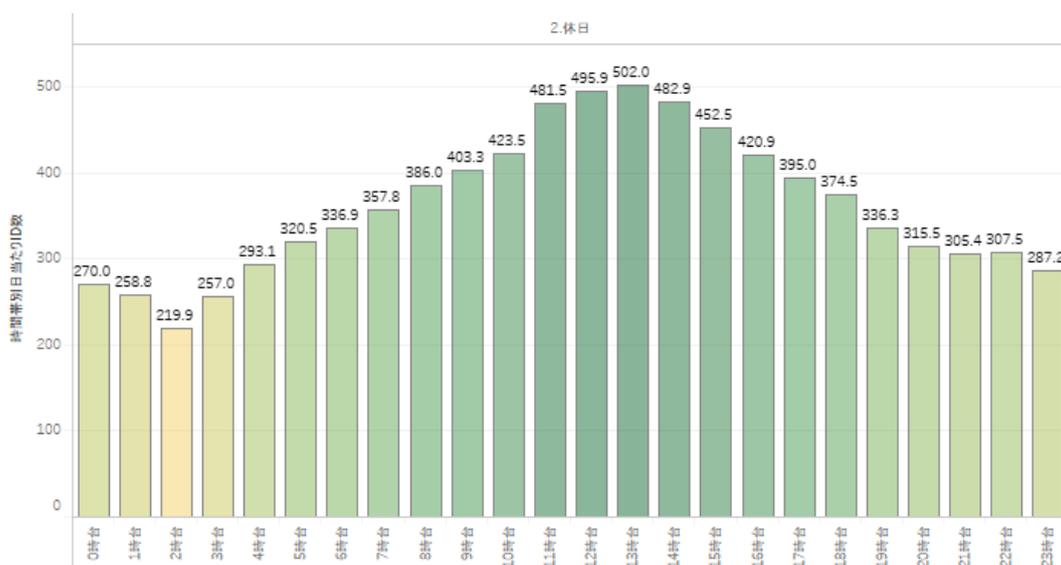
※「滞在」対象者が 10 分以上滞在したメッシュ。

<参考；移動時間帯（休日①）>

・休日における時間帯別のサンプル数をみると、両期間とも夜間のサンプル数が比較的多い（宿泊）。2018 休日では 14 時までサンプル数は増加し、それ以降はほぼ横ばいであるが、2019 休日（GW+瀬戸芸）では、13 時頃をピークに徐々に減少傾向がみられる。（ただし、夜間においても時間当たり 200 サンプル以上。）



▲時間帯別サンプル数（2018 休日）



▲時間帯別サンプル数（2019 休日（GW+瀬戸芸））

1) 島内の移動 (休日②)

・島外居住者の休日の滞在状況を以下に示す。

[2019 休日 (瀬戸芸)]

・平均サンプル数は 657.0 であり、近畿が 18.7%、岡山 11.2%、関東 7.7%、高松市 7.6% である。
 ・滞在の多い箇所としては 2019 休日 (GW+瀬戸芸) と同様であり、近畿や岡山からの来訪者が多いことから、福田や大部など北側にも滞在がみられる。



[2020 休日 (コロナ)]

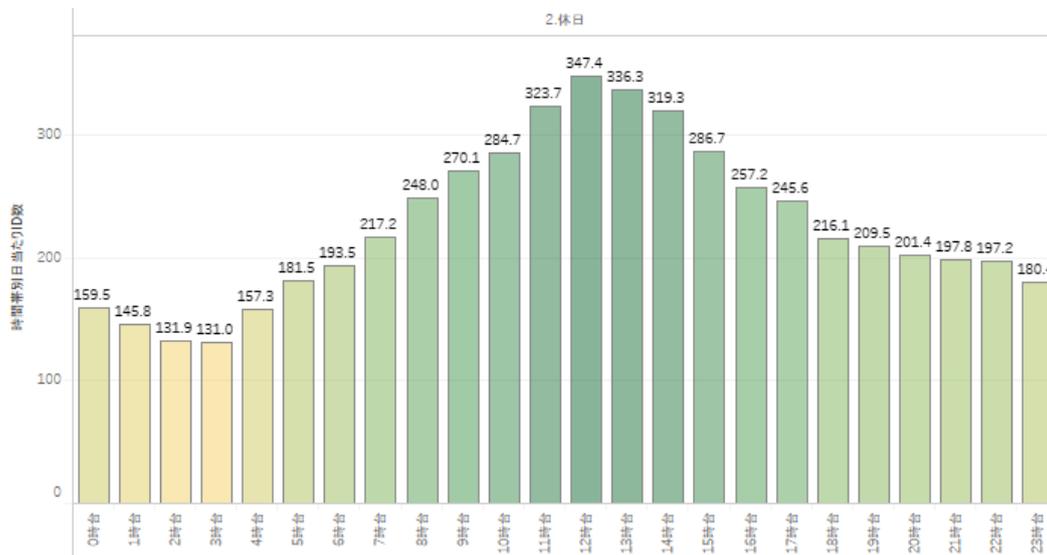
・平均サンプル数は 357.1 であり、近畿が 24.0%、岡山 12.4%、高松市 10.6% で関東が上位にない。
 ・滞在の多い箇所としては、2019 休日 (瀬戸芸) と同様であり、滞在箇所が広範囲に分布しており、比較的広い周遊が一般的な観光スタイルになってきていると考えられる。



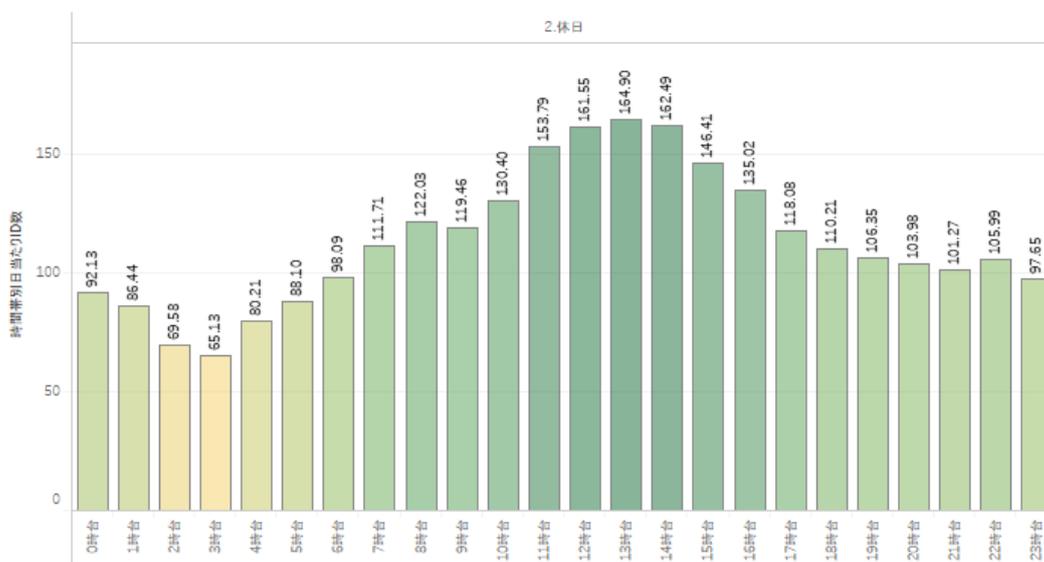
※「滞在」対象者が 10 分以上滞在したメッシュ。

<参考；移動時間帯（休日②）>

・休日における時間帯別のサンプル数をみると、両期間についても夜間のサンプル数が比較的多い。2019 休日（瀬戸芸）では12時頃をピークに、2020 休日（コロナ）でもでは、12～14時頃をピークに徐々に減少傾向がみられる。



▲時間帯別サンプル数（2019 休日（瀬戸芸））



▲時間帯別サンプル数（2020 休日（コロナ））

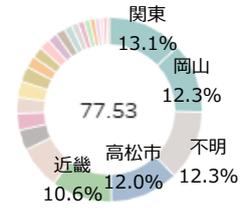
2) 島外居住者の港利用

・2020 休日（瀬戸芸）及び 2020 休日（コロナ）における島外居住者の港利用※の状況を以下に示す。
（時間指定は行わず。）

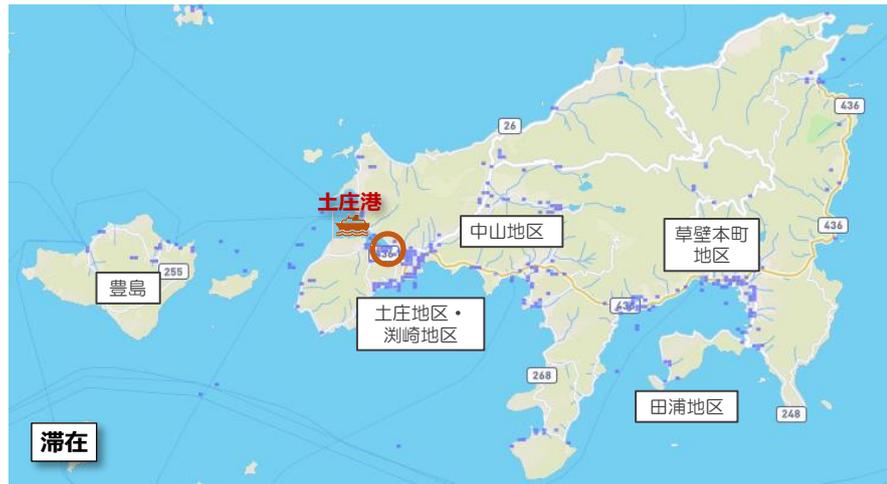
※港利用とは、港が含まれるメッシュを利用した方が滞在したメッシュを分析。（必ずしも航路を利用した訳ではない。）

【土庄港（2019 休日（瀬戸芸））】

- ・土庄港利用者、関東 13.1%、岡山 12.3%、高松市 12.0%、近畿 10.6%。
- ・主な滞在所は、土庄地区・刈崎地区・豊島や草壁本町地区・田浦地区などの南廻り線・田浦線・西浦線・四海線沿線が多く、一部、中山線や三都線・北廻り線沿線にも滞在がみられる。



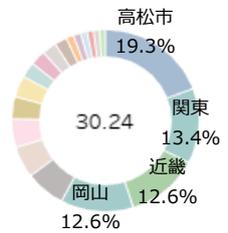
▲居住地内訳



※「滞在」対象者が 10 分以上滞在したメッシュ。

【土庄港（2020 休日（コロナ））】

- ・土庄港利用者、高松市が 19.3%、関東 13.4%、近畿 12.6%、岡山 12.6%。
- ・主な滞在所は、2019 休日（瀬戸芸）と同様であり、滞在箇所が広範囲に分布しており、土庄港を中心に、比較的広い周遊が行われていると考えられる。



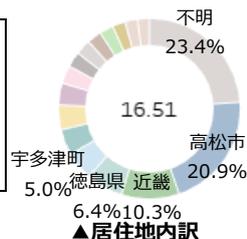
▲居住地内訳



※「滞在」対象者が 10 分以上滞在したメッシュ。

[池田港（2019 休日（瀬戸芸））]

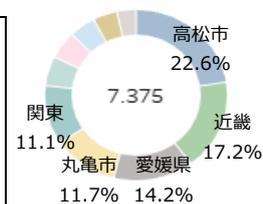
- ・池田港利用者、高松市が 20.9%、近畿が 10.3%。
- ・主な滞在所は、土庄地区・刈崎地区・オリーブ公園や草壁本町地区などの南廻り線・田ノ浦線沿線が多く、一部、中山線や三都線・北廻り線・西浦線・四海線沿線にも滞在がみられる。



※「滞在」対象者が 10 分以上滞在したメッシュ。

[池田港（2020 休日（コロナ））]

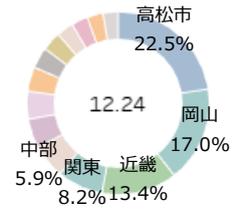
- ・池田港利用者、高松市が 22.6%、近畿 17.2%、愛媛 14.2%、丸亀市 11.7%、関東 11.1%。
- ・主な滞在所は、2019 休日（瀬戸芸）と同様であり、滞在所が広範囲に分布しており、池田港を中心に、比較的広い周遊が行われていると考えられる。



※「滞在」対象者が 10 分以上滞在したメッシュ。

【草壁港（2019 休日（瀬戸芸））】

- ・草壁港利用者、高松市 22.5%、岡山 17.0%、近畿 13.4%、関東 8.2%。
- ・主な滞在場所は、土庄地区・刈崎地区・オリーブ公園や草壁本町～苗羽地区などの南廻り線・田ノ浦線沿線が多く、一部、中山線や三都線・北廻り線・西浦線・四海線沿線にも滞在がみられる。



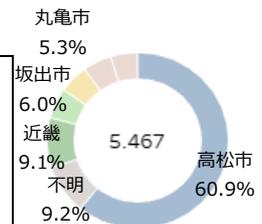
▲居住地内訳



※「滞在」対象者が 10 分以上滞在したメッシュ。

【草壁港（2020 休日（コロナ））】

- ・草壁港利用者、高松市が 60.9%、近畿 9.1%。
- ・主な滞在場所は、2019 休日（瀬戸芸）と同様であり、滞在箇所が広範囲に分布しており、草壁港を中心に、比較的広い周遊が行われていると考えられる。



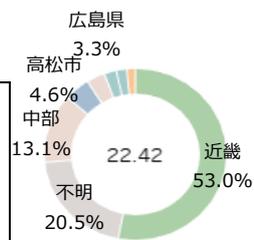
▲居住地内訳



※「滞在」対象者が 10 分以上滞在したメッシュ。

【福田港（2019 休日（瀬戸芸））】

- ・福田港利用者は、近畿が 53.0%、中部が 13.1%。
- ・主な滞在場所は、土庄地区・澁崎地区・池田地区や草壁本町～苗羽地区などの南廻り線・田ノ浦線沿線が多く、一部、中山線や三都線・北廻り線・西浦線・四海線沿線にも滞在がみられる。



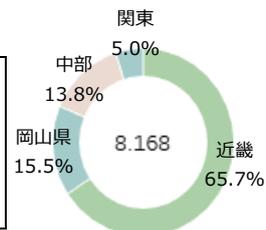
▲居住地内訳



※「滞在」対象者が 10 分以上滞在したメッシュ。

【福田港（2020 休日（コロナ））】

- ・福田港利用者は、近畿が 65.7%、岡山 15.5%、中部が 13.8%。
- ・主な滞在場所は、2019 休日（瀬戸芸）と同様であり、滞在箇所が広範囲に分布しており、本州方面の居住者が福田港を中心に、比較的広い周遊が行われていると考えられる。



▲居住地内訳



※「滞在」対象者が 10 分以上滞在したメッシュ。

[大部港（2019 休日（瀬戸芸））]

- ・大部港利用者は、近畿が 39.0%、岡山が 20.8%。
- ・主な滞在场所は、福田地区・北浦地区・刈崎地区などの北廻り線沿線がみられるほか、一部、南廻り線や中山線・三都線・西浦線沿線にも滞在がみられる。



※「滞在」対象者が 10 分以上滞在したメッシュ。

[大部港（2020 休日（コロナ））]

- ・大部港利用者は、近畿が 63.9%、岡山が 26.8%。
- ・主な滞在场所は、2019 休日（瀬戸芸）と同様であり、滞在箇所が広範囲に分布しており、本州方面の居住者が大部港を中心に、比較的広い周遊が行われていると考えられる。



※「滞在」対象者が 10 分以上滞在したメッシュ。